

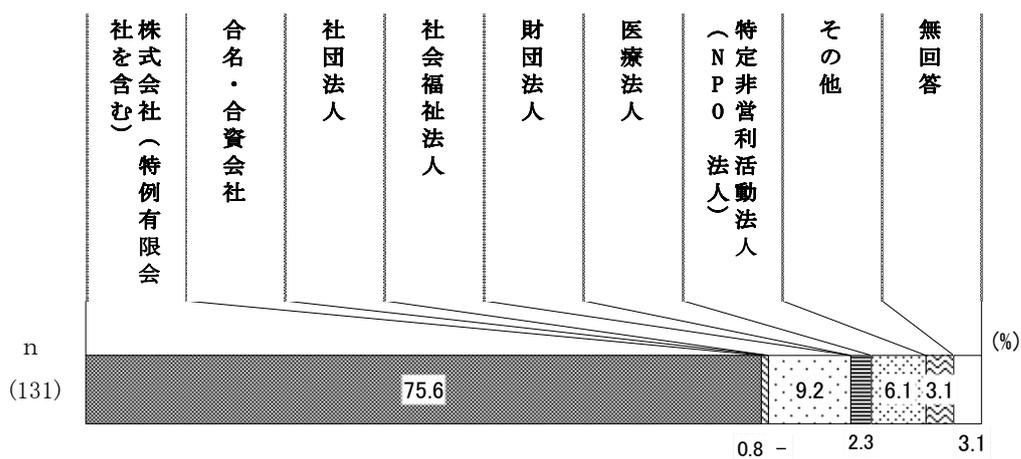
## 2-5 ケアマネジャー調査

### (1) 貴事業所の概要について

#### ①事業所の組織(法人格)

問1 あなたの所属する事業所の組織(法人格)は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表274> 事業所の組織(法人格)

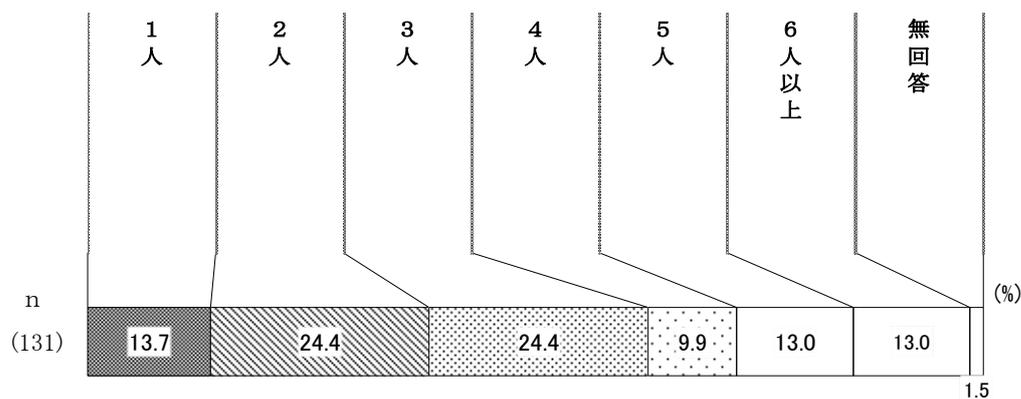


事業所の法人格をたずねたところ、「株式会社(特例有限会社を含む)」(75.6%)が7割台半ばとなっている。

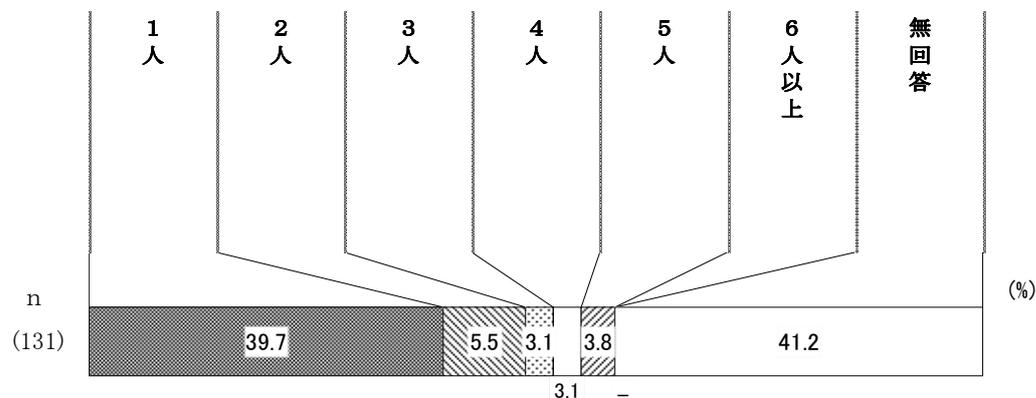
②居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数

問2 あなたの居宅介護支援事業所のケアマネジャーは、あなたも含めて何人ですか。そのうち、主任ケアマネジャーは何人ですか。

<図表275> 居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数



<図表276> 主任ケアマネジャーの人数



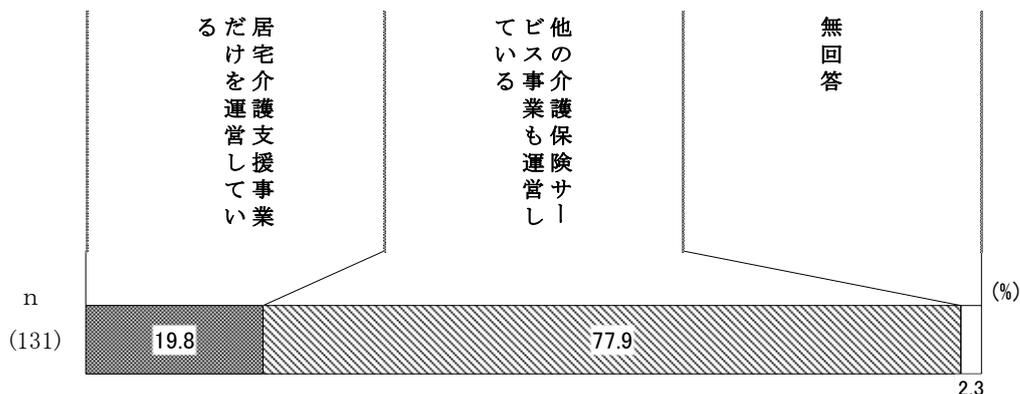
居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数をたずねたところ、「2人」(24.4%)及び「3人」(24.4%)がそれぞれ2割台半ば近くとなっている。

次に主任ケアマネジャーの人数をたずねたところ、「1人」(39.7%)が4割弱となっている。

### ③介護保険サービス事業の運営状況

問3 あなたの所属する事業所は、居宅介護支援事業の他に介護保険サービス事業を運営していますか。なお、同じ所在地内に限ります。(1つに○)

<図表277> 介護保険サービス事業の運営状況

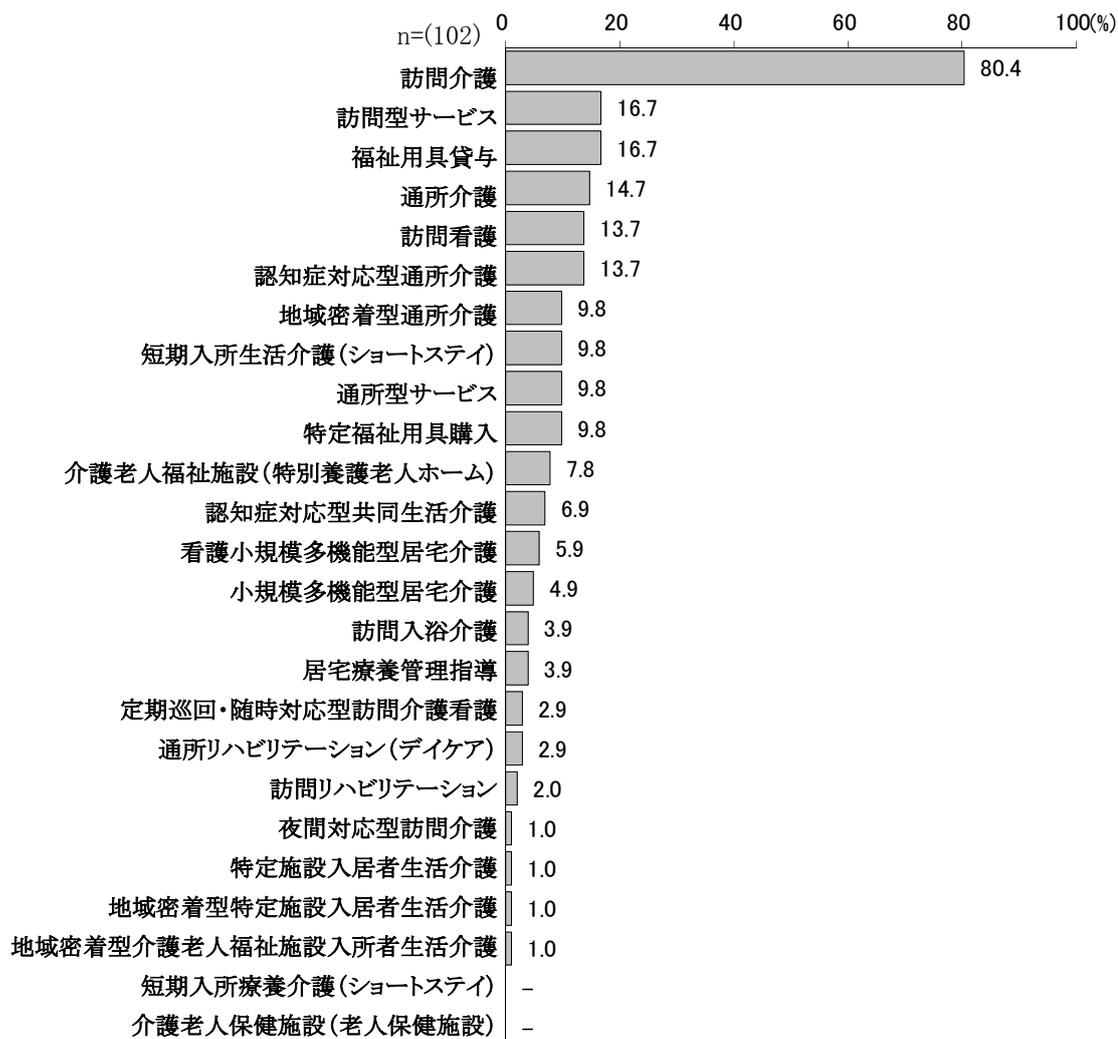


介護保険サービス事業の運営状況をたずねたところ、「他の介護保険サービス事業も運営している」(77.9%)が7割台半ばを超えている。

④運営しているサービス内容

問3-1 《問3で「他の介護保険サービス事業も運営している」を選んだ方のみ  
お答えください》  
運営しているサービス内容は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表278> 運営しているサービス内容 (複数回答)



※上記サービスには介護予防も含む

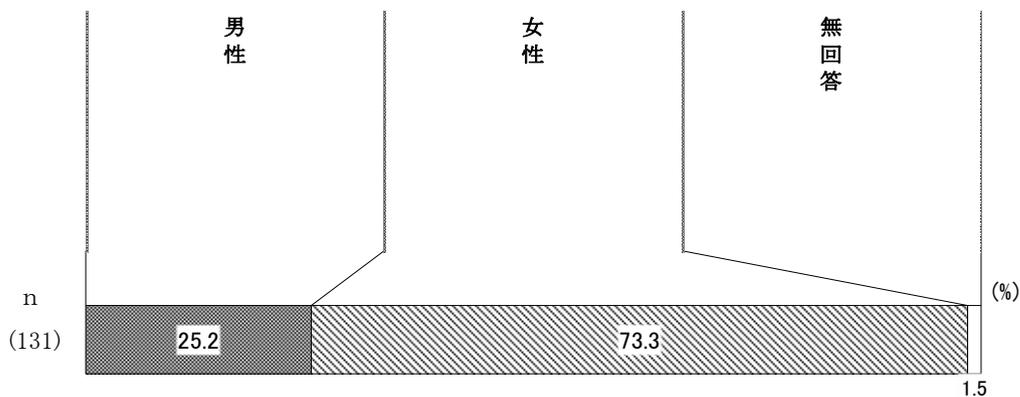
問3で「他の介護保険サービス事業も運営している」と回答した人に運営しているサービス内容をたずねたところ、「訪問介護」(80.4%)が約8割と最も高く、次いで、「訪問型サービス」(16.7%)及び「福祉用具貸与」(ともに16.7%)が1割台半ばを超えている。

(2) あなたご自身のことについて

①性別

問4 あなたの性別をお選びください。(1つに○)

<図表279> 性別

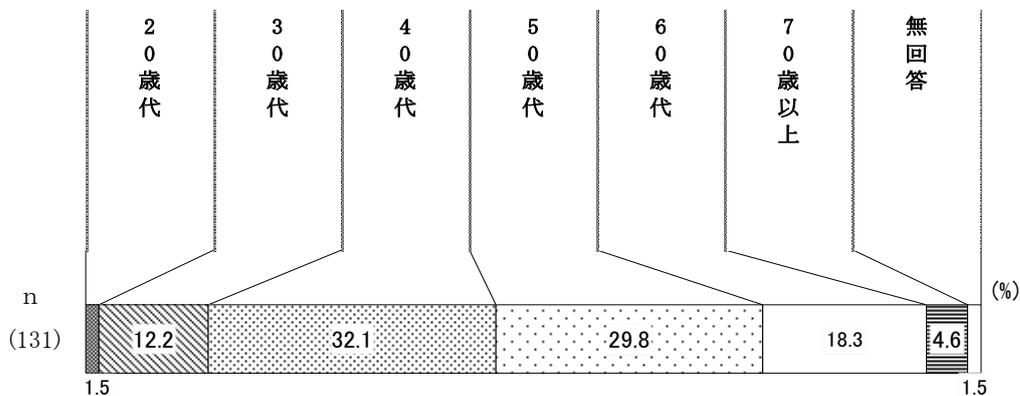


ケアマネジャーの性別をたずねたところ、「女性」(73.3%)が7割台半ば近くとなっている。

②年齢

問5 あなたの年齢をお選びください。(1つに○)

<図表280> 年齢

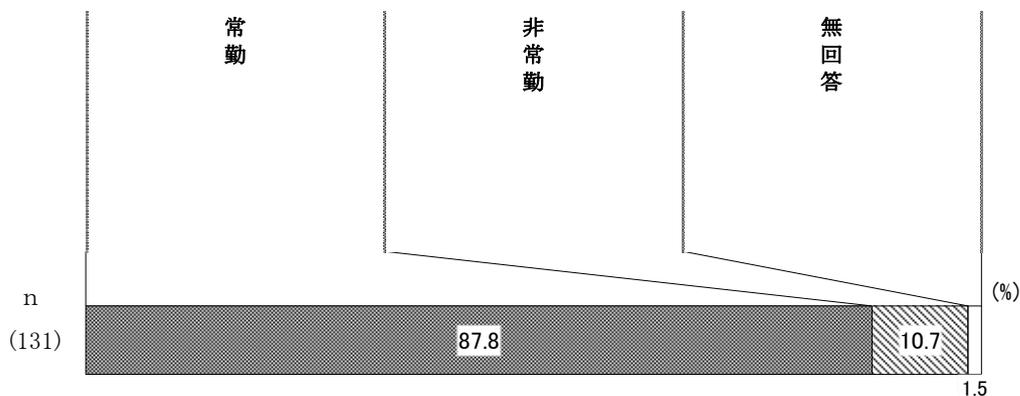


ケアマネジャーの年齢をたずねたところ、「40歳代」(32.1%)が3割強となっている。

③勤務形態

問6 あなたの勤務形態をお選びください。(1つに○)

<図表281> 勤務形態



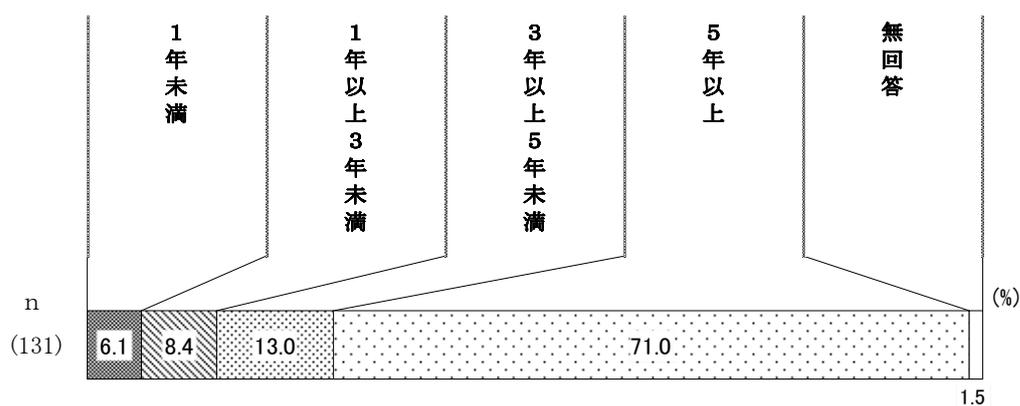
ケアマネジャーの勤務形態をたずねたところ、「常勤」(87.8%)が8割台半ばを超えており、「非常勤」(10.7%)は約1割となっている。

④経験年数

問7 あなたのケアマネジャーの経験年数をお選びください。

※他事業所での年数も含む(1つに○)

<図表282> 経験年数

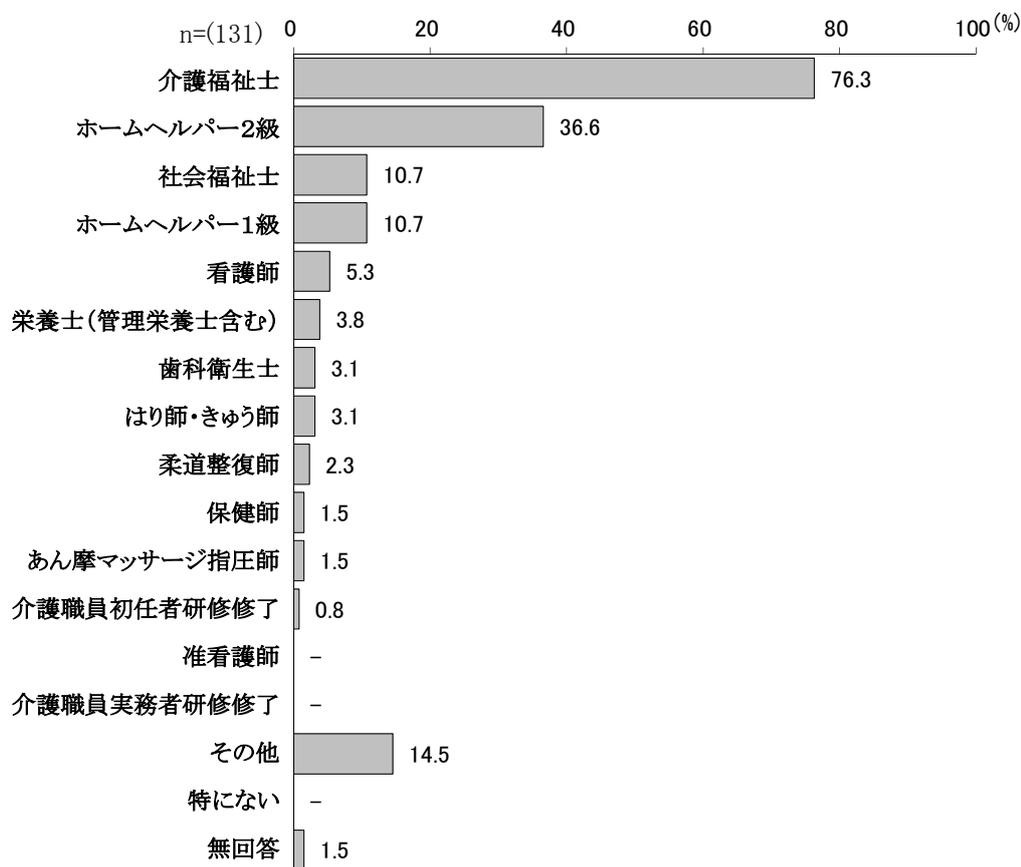


ケアマネジャーの経験年数をたずねたところ、「5年以上」(71.0%)が7割強と最も高くなっている。

⑤介護支援専門員以外に所有している資格

問8 あなたは、介護支援専門員以外にどのような資格をお持ちですか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表283> 介護支援専門員以外に所有している資格 (複数回答)



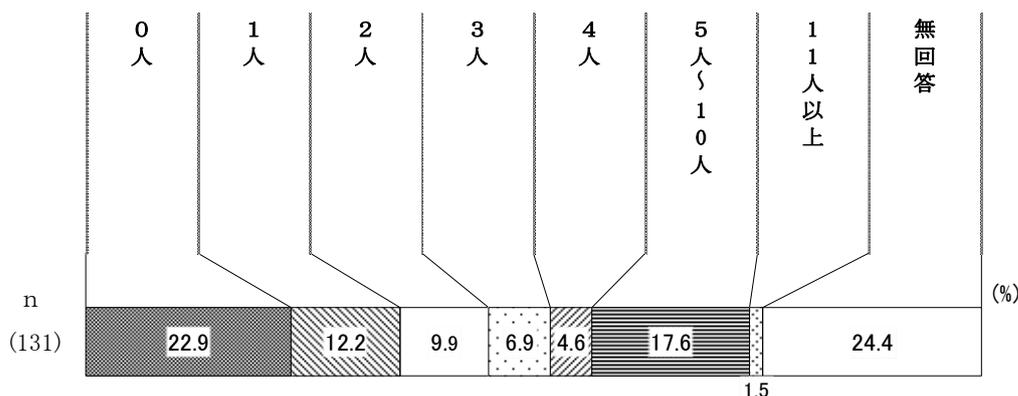
介護支援専門員以外に所有している資格をたずねたところ、「介護福祉士」(76.3%)が7割台半ばを超えて最も高く、次いで、「ホームヘルパー2級」(36.6%)、「社会福祉士」及び「ホームヘルパー1級」(ともに10.7%)の順となっている。

(3) ケアマネジメントの状況について

①担当している人数

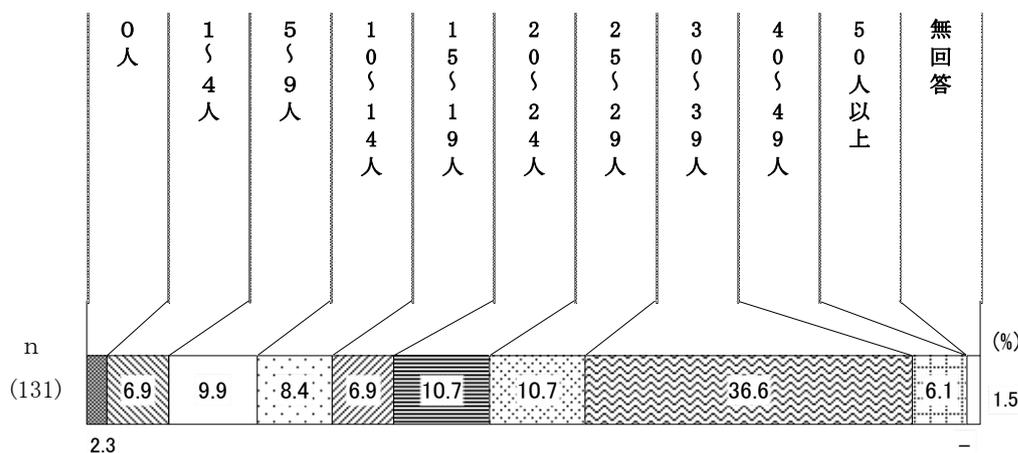
問9 あなたが11月1日現在、担当している人数を教えてください。

<図表284> 担当している予防支援者数



担当している予防支援者数をたずねたところ、「5人～10人」(17.6%)が1割台半ばを超えている。一方、「0人」(22.9%)は2割強となっている。

<図表285> 担当している介護支援者数

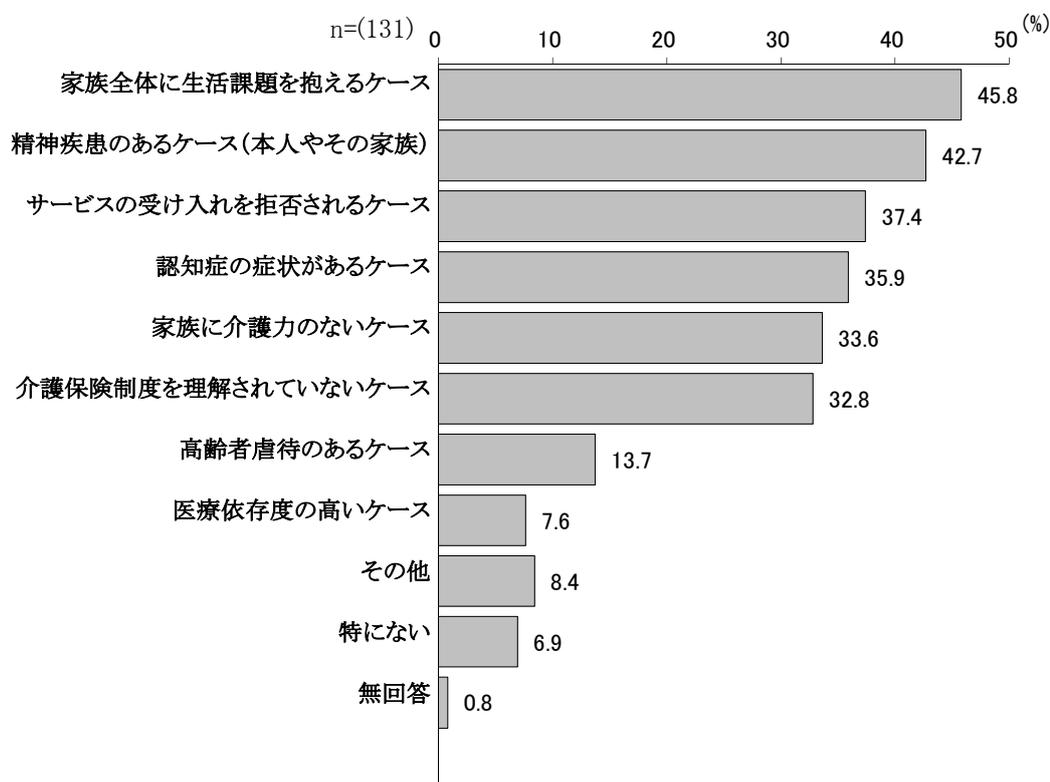


担当している介護支援者数をたずねたところ、「30～39人」(36.6%)が3割台半ばを超えて最も高くなっている。

②過去1年間で、支援困難と感じたケース

問10 過去1年間で、あなたが支援困難と感じたケースは、次のうちどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表286> 過去1年間で、支援困難と感じたケース（複数回答）

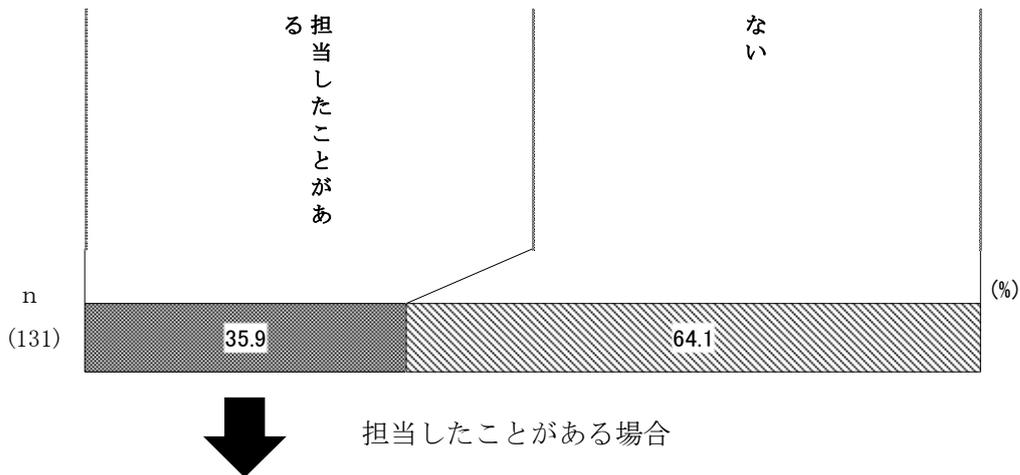


過去1年間で、支援困難と感じたケースをたずねたところ、「家族全体に生活課題を抱えるケース」(45.8%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「精神疾患のあるケース(本人やその家族)」(42.7%)、「サービスの受け入れを拒否されるケース」(37.4%)の順となっている。

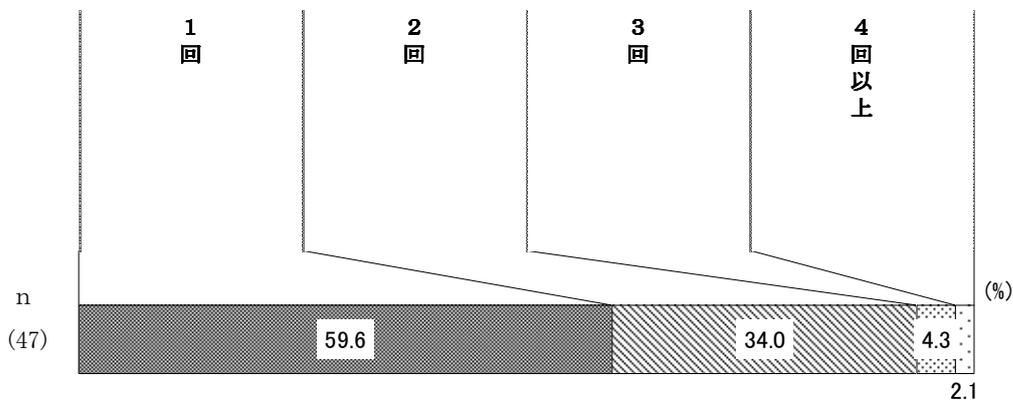
③過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当した経験及び回数

問11 あなたは、過去1年間で、虐待に繋がる可能性のあるケースを担当したことがありますか。なお、ある場合は、回数をご記入ください。

<図表287> 過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことの有無



<図表288> 過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当した回数



過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことの有無をたずねたところ、「担当したことがある」(35.9%)は3割台半ばとなっている。

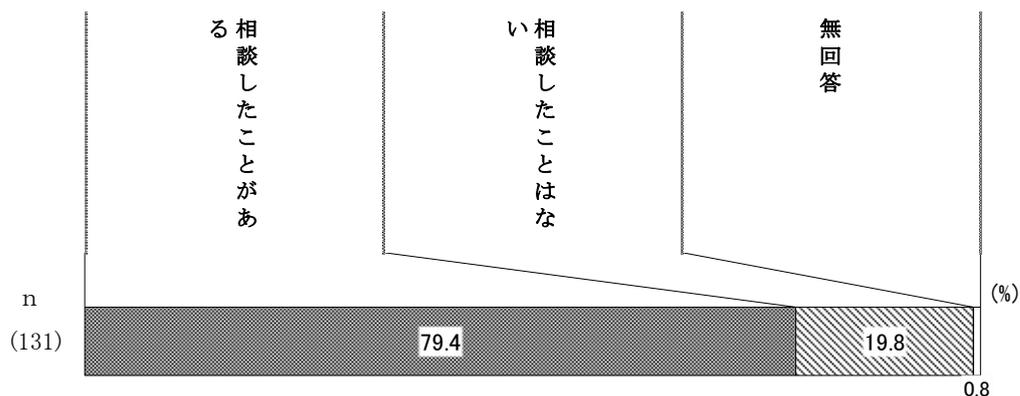
過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当した回数をたずねたところ、「1回」(59.6%)が6割弱となっている。

(4) 高齢者総合相談センターのケアマネジャーへの支援について

①過去1年間の高齢者総合相談センターの利用状況

問12 過去1年間で、あなたは、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。(1つに○)

<図表289> 過去1年間の高齢者総合相談センターの利用状況

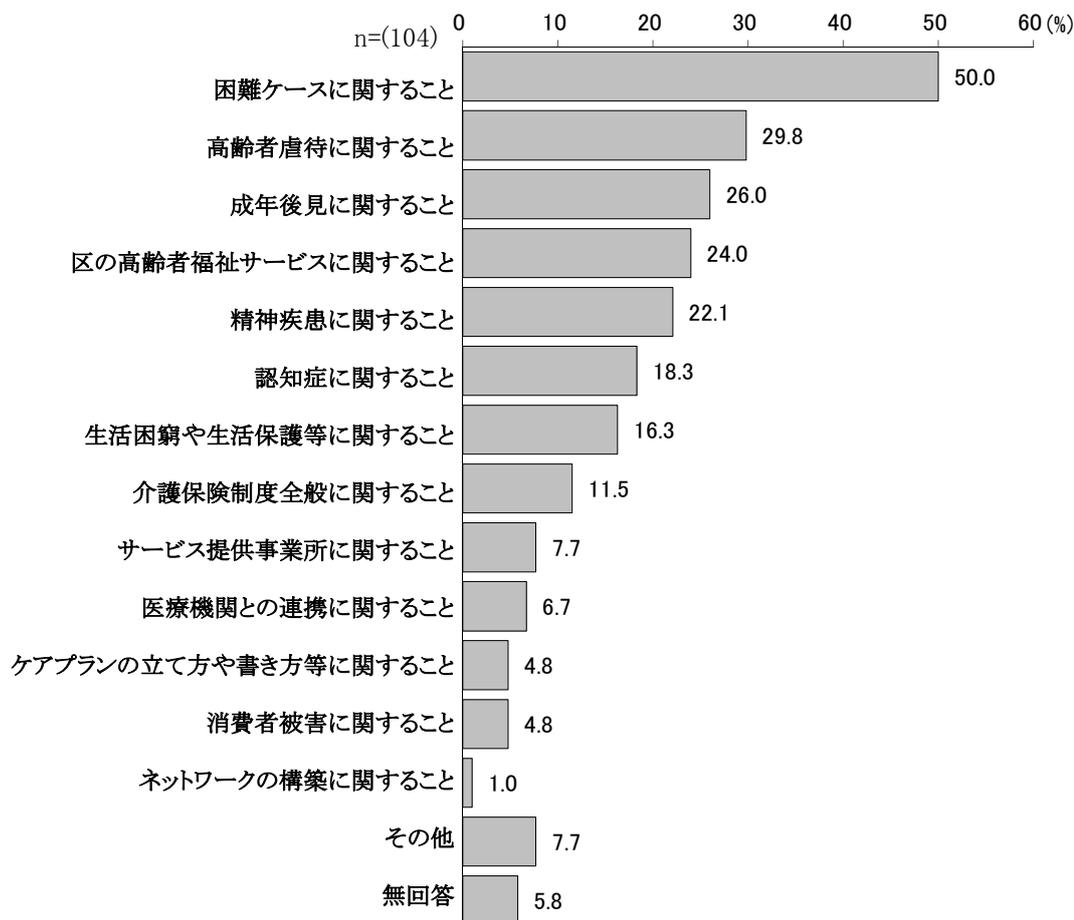


過去1年間の高齢者総合相談センターの利用状況をたずねたところ、「相談したことがある」(79.4%)は8割弱となっている。

## ②高齢者総合相談センターに相談した分野

問12-1 ≪問12で「相談したことがある」を選んだ方のみお答えください≫  
 相談した分野は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表290> 高齢者総合相談センターに相談した分野 (複数回答)

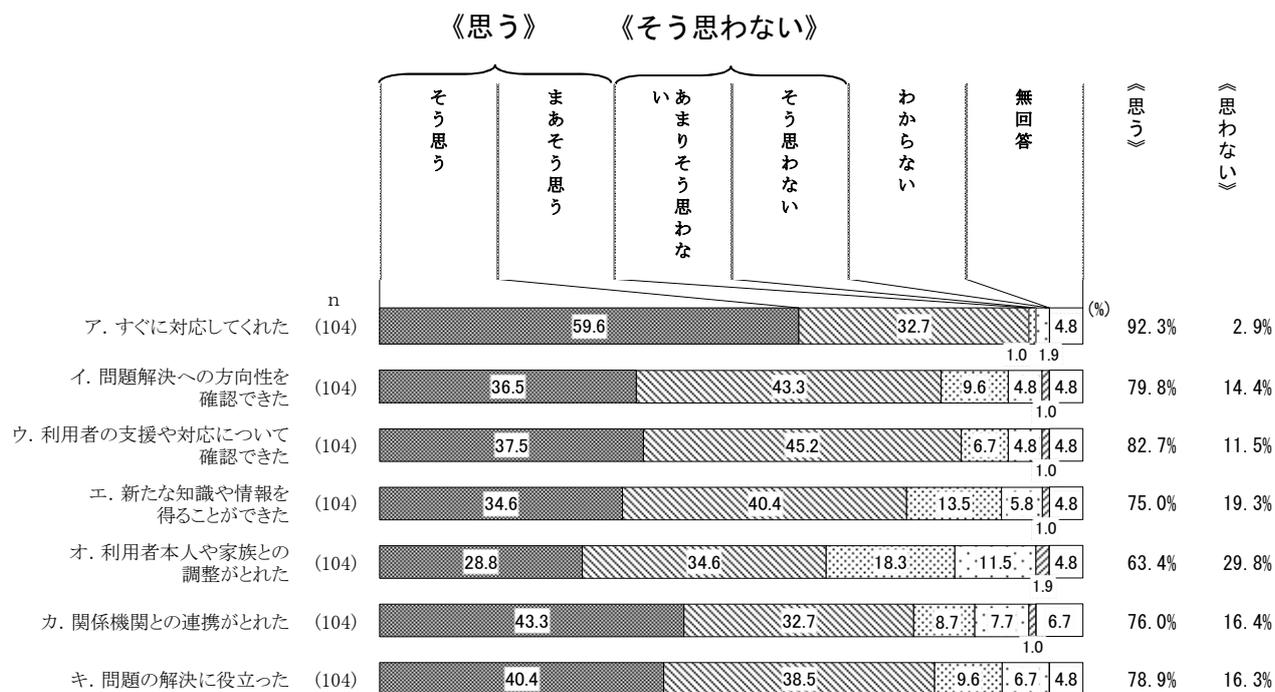


問12で高齢者総合相談センターに「相談したことがある」と回答した人に、相談した分野をたずねたところ、「困難ケースに関すること」(50.0%)が5割で最も高く、次いで、「高齢者虐待に関すること」(29.8%)、「成年後見に関すること」(26.0%)の順となっている。

③高齢者総合相談センターに対する評価

問12-2 《問12で「相談したことがある」を選んだ方のみお答えください》  
 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。  
 (それぞれ1つに〇)

<図表291> 高齢者総合相談センターに対する評価



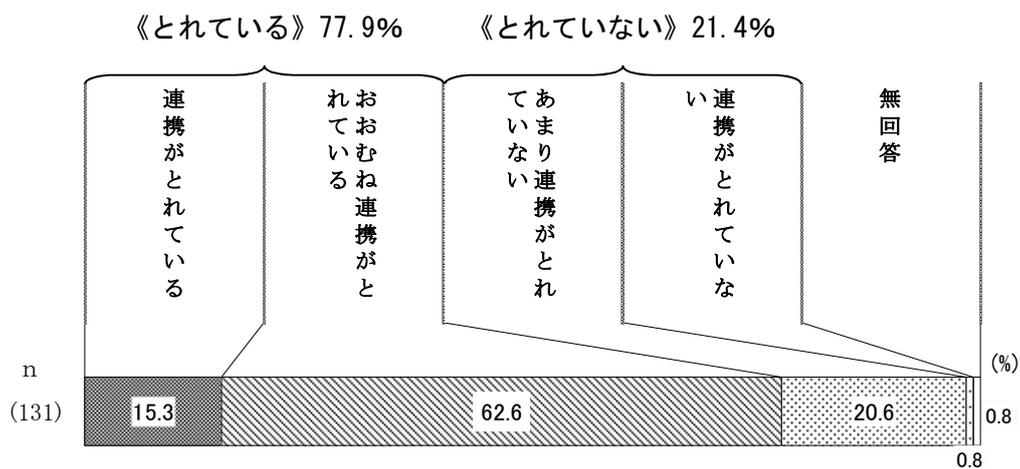
問12で高齢者総合相談センターに「相談したことがある」と回答した人に、高齢者総合相談センターに対する評価をたずねたところ、「《そう思う》と「《まあそう思う》を合わせた《思う》は、【ア. すぐに対応してくれた】(92.3%)で9割強と最も高く、次いで【ウ. 利用者の支援や対応について確認できた】(82.7%)、【イ. 問題解決への方向性を確認できた】(79.8%)の順となっている。

(5) 各種連携の状況について

①主治医との連携状況

問13 あなたはケアマネジャーとして、主治医（かかりつけ診療所・クリニック）との連携はとれていますか。（1つに〇）

<図表292> 主治医との連携状況

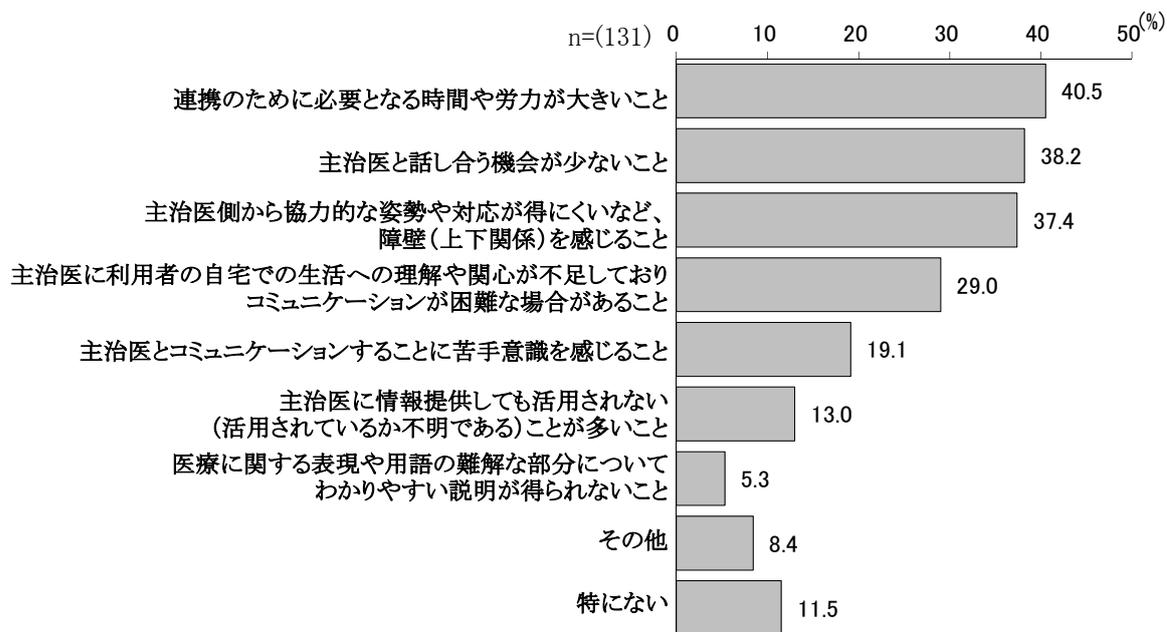


主治医との連携状況をたずねたところ、「連携がとれている」(15.3%)と「おおむね連携がとれている」(62.6%)をあわせた《とれている》(77.9%)が7割台半ばを超えている。

②主治医との連携における課題

問14 あなた自身の、主治医（かかりつけ診療所・クリニック）との連携における課題は何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

<図表293> 主治医との連携における課題（複数回答）

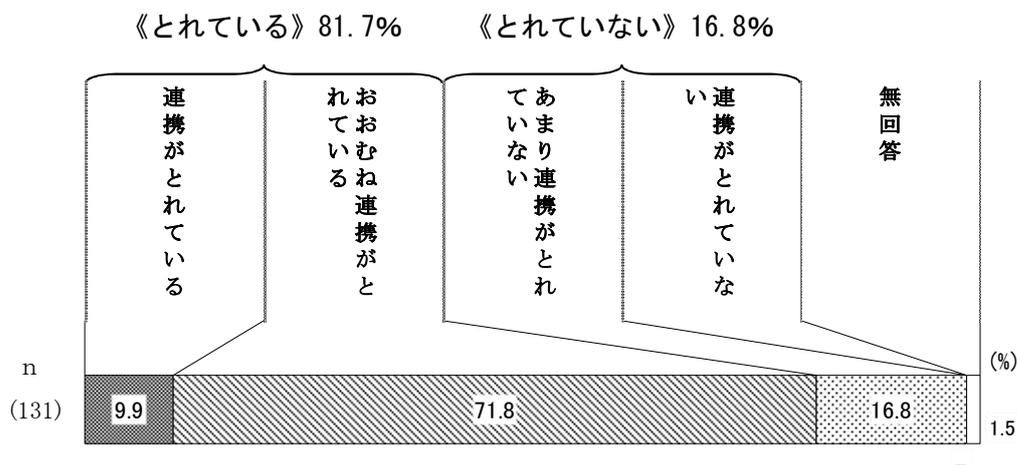


主治医との連携における課題をたずねたところ、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」(40.5%)が約4割で最も高く、次いで、「主治医と話し合う機会が少ないこと」(38.2%)、「主治医側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁(上下関係)を感じる」(37.4%)の順となっている。

③病院との連携状況

問15 あなたはケアマネジャーとして、病院（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）との連携状況について、どのように思いますか。（1つに○）

<図表294> 病院との連携状況

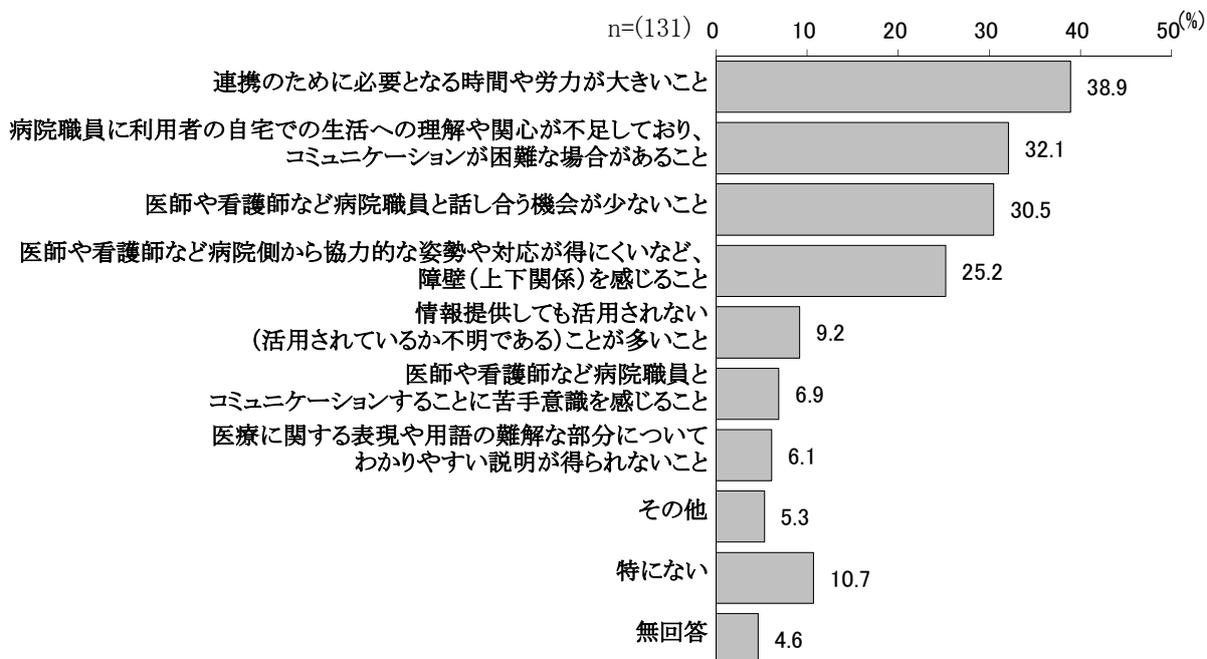


病院との連携状況をたずねたところ、「連携がとれている」（9.9%）と「おおむね連携がとれている」（71.8%）をあわせた《とれている》（81.7%）が8割強となっている。

④病院との連携における課題

問16 あなた自身の、病院（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）との連携における課題は何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

<図表295> 病院との連携における課題（複数回答）

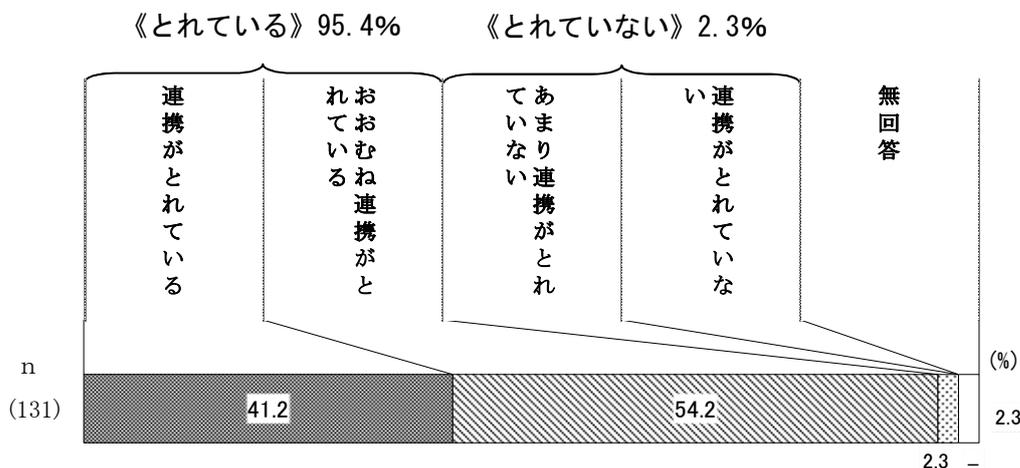


病院との連携における課題をたずねたところ、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」(38.9%)が4割近くで最も高く、次いで、「病院職員に利用者の自宅での生活への理解や関心が不足しており、コミュニケーションが困難な場合があること」(32.1%)、「医師や看護師など病院職員と話し合う機会が少ないこと」(30.5%)の順となっている。

⑤介護保険サービス事業所との連携状況

問17 あなたはケアマネジャーとして、介護保険サービス事業所との連携はとれていますか。  
(1つに○)

<図表296> 介護保険サービス事業所との連携状況

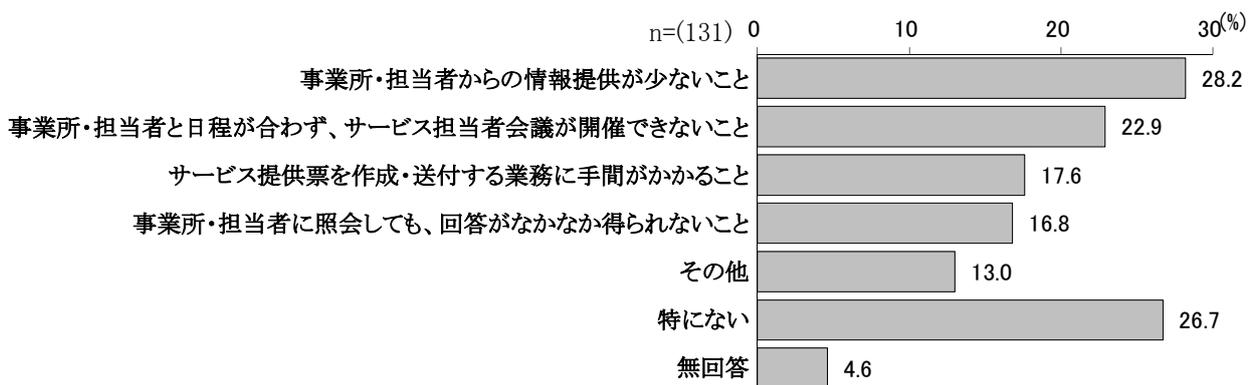


介護保険サービス事業所との連携状況をたずねたところ、「連携がとれている」(41.2%)と「おおむね連携がとれている」(54.2%)をあわせた《とれている》(95.4%)が9割台半ばとなっている。

⑥介護保険サービス事業所との連携における課題

問18 あなた自身の、介護保険サービス事業所との連携における課題は何だと思えますか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表297> 介護保険サービス事業所との連携における課題 (複数回答)

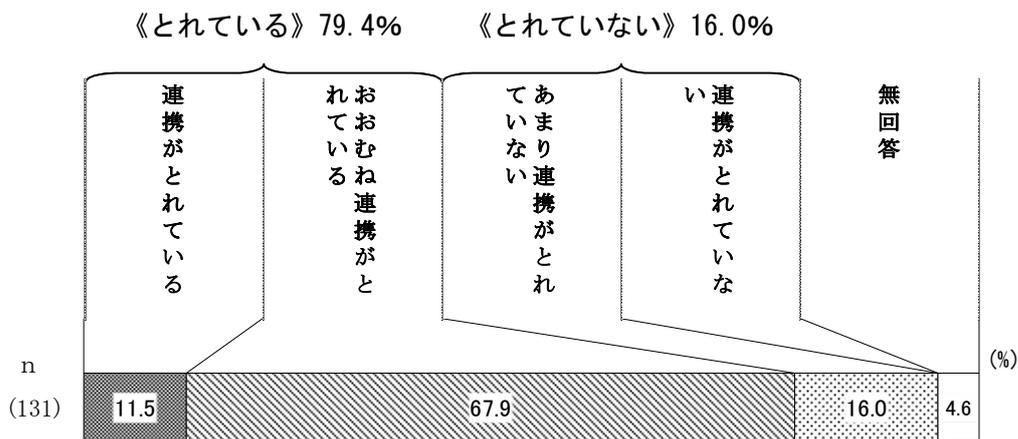


介護保険サービス事業所との連携における課題をたずねたところ、「事業所・担当者からの情報提供が少ないこと」(28.2%)が3割近くで最も高く、次いで、「事業所・担当者と日程が合わず、サービス担当者会議が開催できないこと」(22.9%)の順となっている。一方、「特になし」は26.7%であった。

⑦在宅医療・介護連携の状況

問19 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思いますか。(1つに○)

<図表298> 在宅医療・介護連携の状況

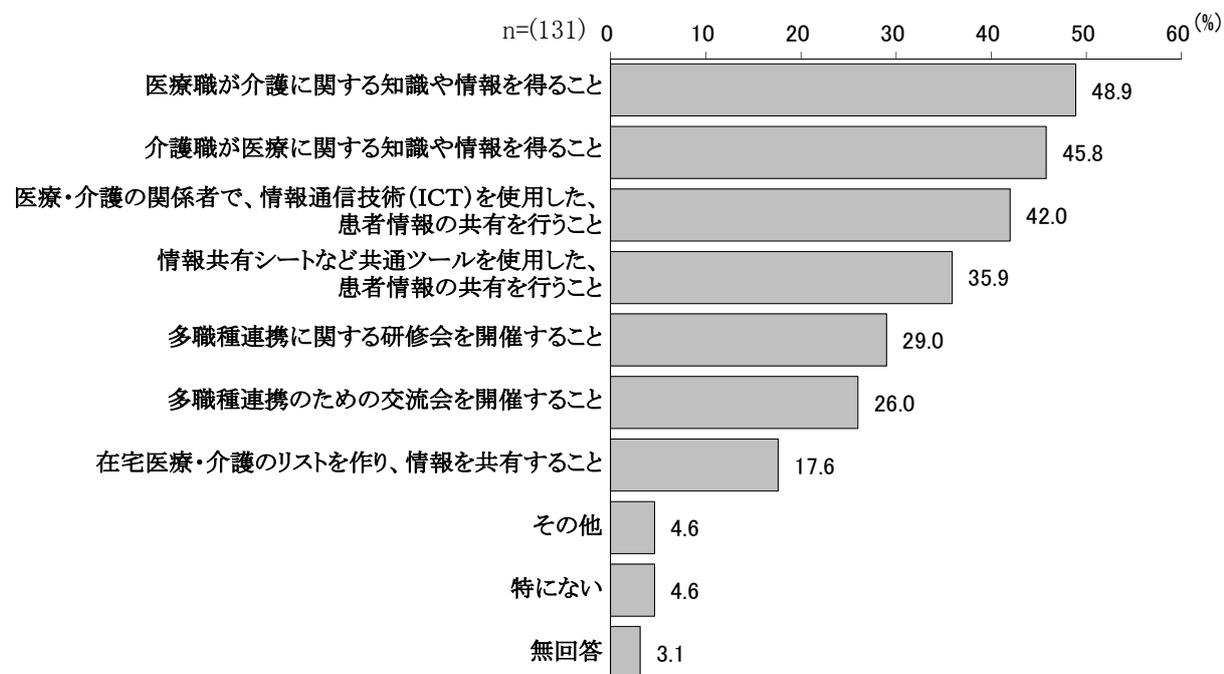


在宅医療・介護連携の状況をたずねたところ、「連携がとれている」(11.5%)と「おおむね連携がとれている」(67.9%)をあわせた《とれている》(79.4%)が8割弱となっている。

## ⑧在宅医療・介護連携を推進するために必要なこと

問20 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表299> 在宅医療・介護連携を推進するために必要なこと (複数回答)

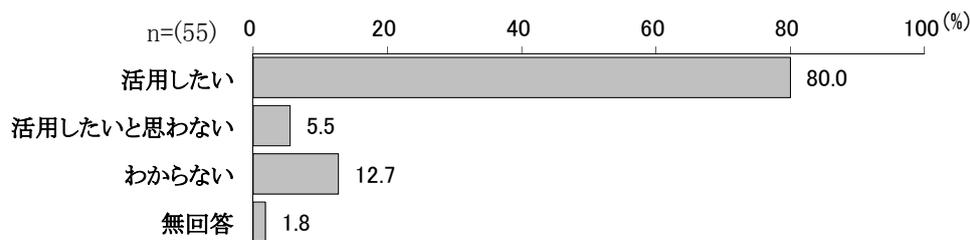


在宅医療・介護連携を推進するために必要なことをたずねたところ、「医療職が介護に関する知識や情報を得ること」(48.9%)が5割近くで最も高く、次いで、「介護職が医療に関する知識や情報を得ること」(45.8%)、「医療・介護の関係者で、情報通信技術 (ICT) を使用した、患者情報の共有を行うこと」(42.0%)の順となっている。一方、「特にない」は4.6%であった。

⑨患者情報の共有のためにICTを活用すること

問20-1 <<問20で「医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)※を使用した、患者情報の共有を行うこと」を選んだ方のみお答えください>>  
多職種で患者情報の共有を行うためにICTを活用することについて、どのように考えますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表300> 患者情報の共有のためにICTを活用すること(複数回答)



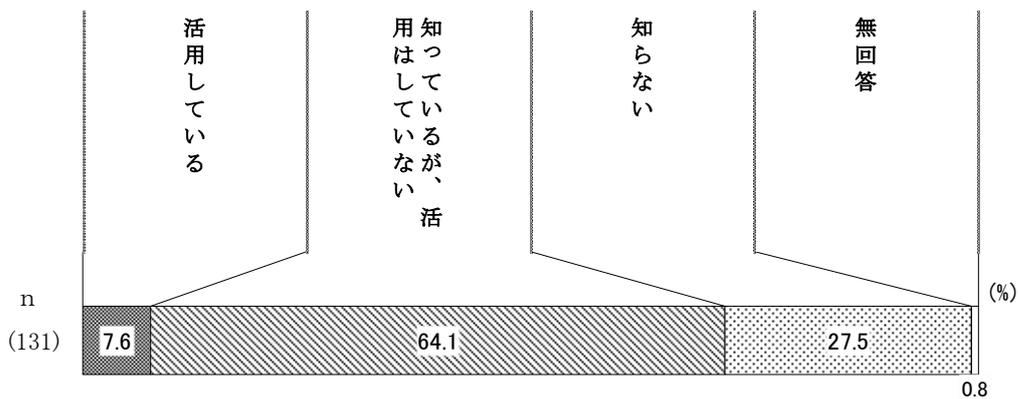
問20で「医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)を使用した患者情報の共有を行うこと」と回答した人に、患者情報の共有のためにICTを活用することをたずねたところ、「活用したい」(80.0%)が8割で最も高く、次いで「わからない」(12.7%)、「活用したいと思わない」(5.5%)の順となっている。

(6) 在宅医療への対応について

①在宅医療相談窓口の活用状況

問21 あなたは、区の「在宅医療相談窓口」で、在宅療養に関する医療を中心とした相談が受けられるということをご存じですか。(1つに○)

<図表301> 在宅医療相談窓口の活用状況



在宅医療相談窓口の活用状況をたずねたところ、「活用している」(7.6%)は1割未満となっている。

②在宅療養相談窓口で活用していること、期待していること

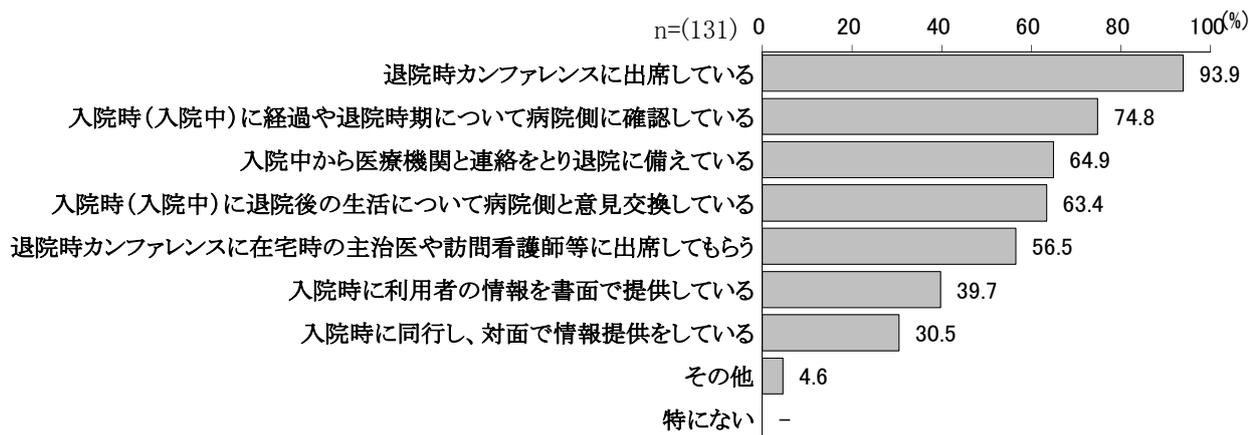
問21-1 <<問21で「活用している」を選んだ方のみお答えください>>  
 「在宅医療相談窓口」で活用していることや期待することがあれば、ご自由にお書きください。

「在宅医療相談窓口」で活用していることや期待することについて、「困難事例を含めた個別ケースへの相談」「知識など不足している事や障害者関連のサービスなどへのレクチャー」といった回答があげられた。

③退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応

問22 あなたは、利用者が入院している時の病院との連携について、入院時、退院が決まった時、退院直後の高齢者等の医療の継続のためにどのように対応していますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

<図表302> 退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応 (複数回答)



退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応をたずねたところ、「退院時カンファレンスに出席している」(93.9%)が9割台半ば近くで最も高く、次いで、「入院時(入院中)に経過や退院時期について病院側に確認している」(74.8%)、「入院中から医療機関と連絡をとり退院に備えている」(64.9%)の順となっている。

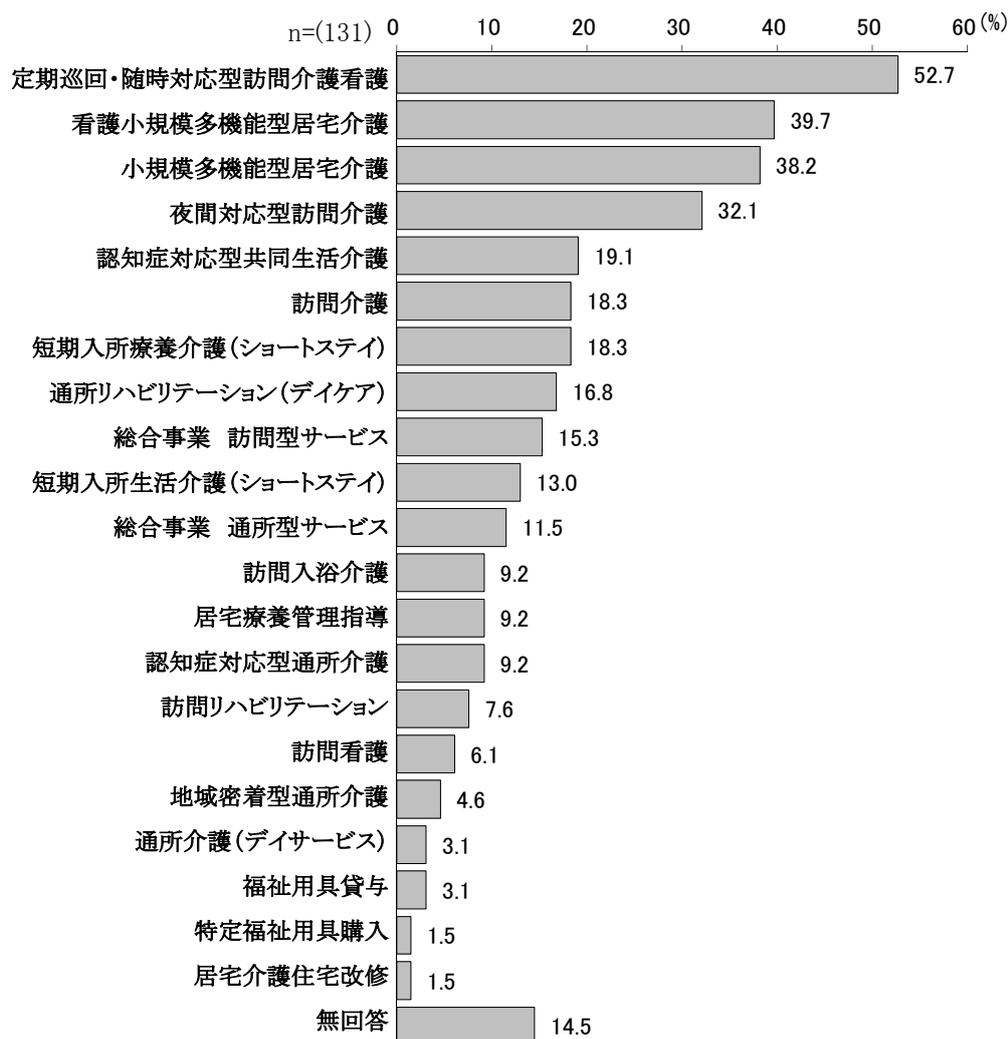
(7) ケアプランへの組み込みについて

①ケアプランの作成にあたって、組みにくいと思うサービスとその理由

問23 あなたは、ケアプランの作成にあたって、(ア) 組み込みにくいと思う介護保険のサービスはありますか。ある場合は、(イ) その理由をお答えください。

(ア) ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う介護保険サービス

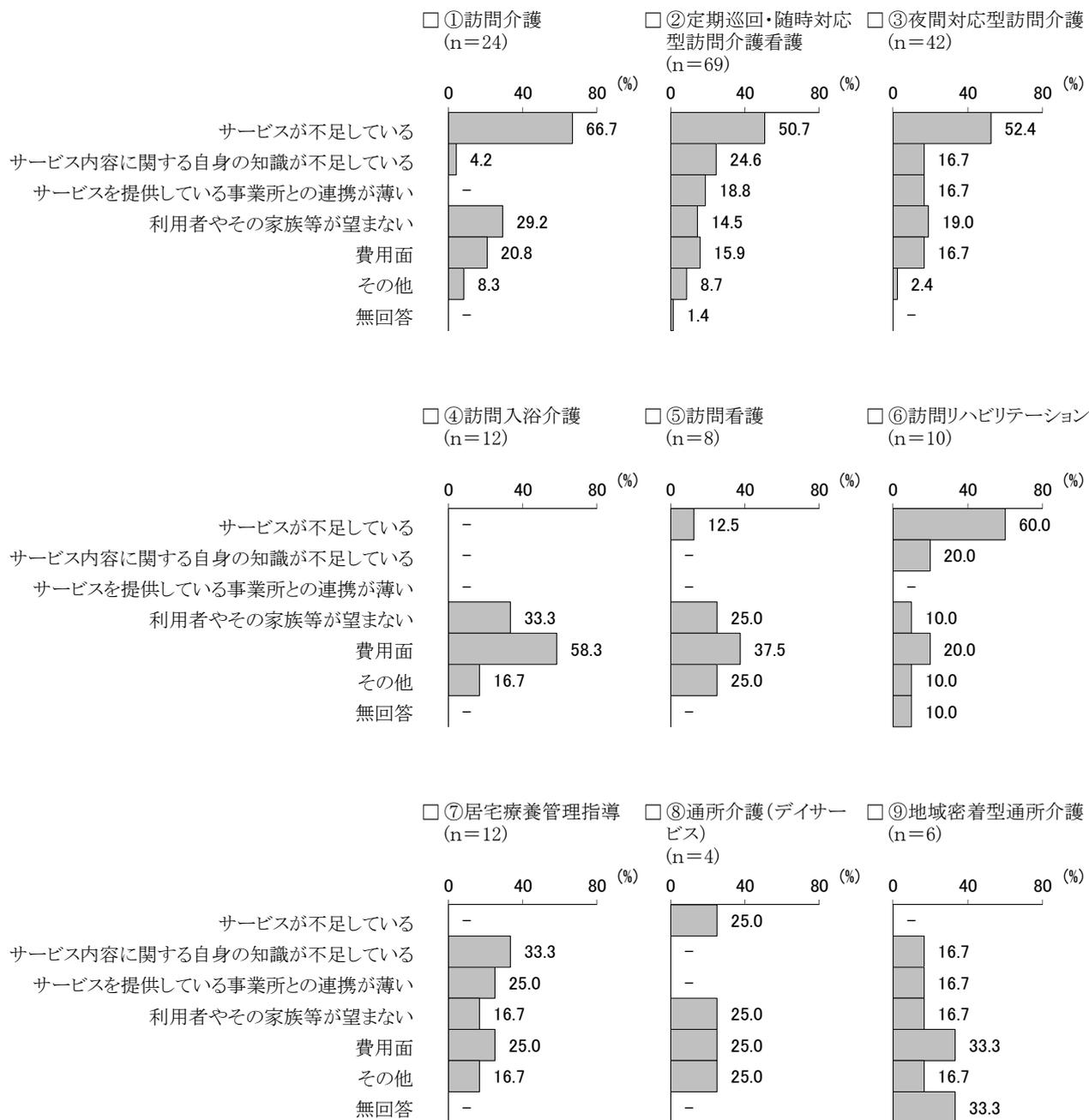
<図表303> ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う介護保険サービス (複数回答)



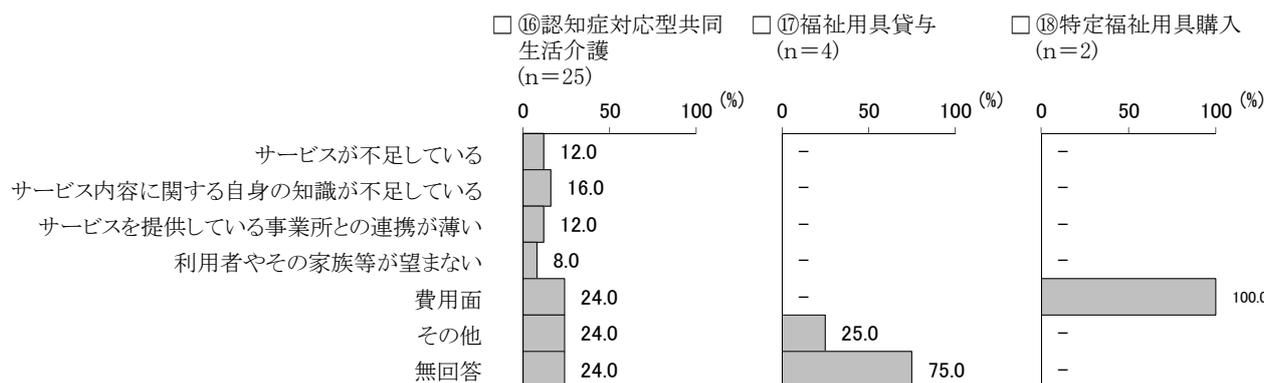
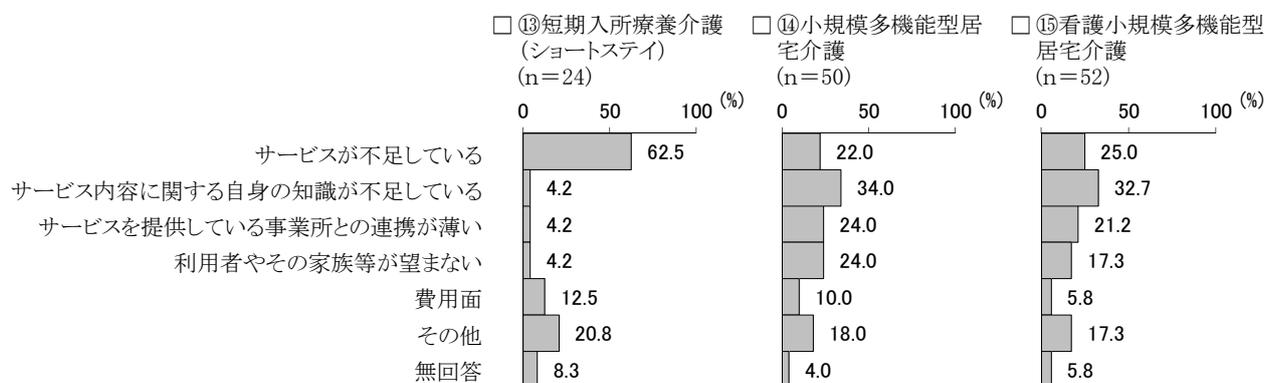
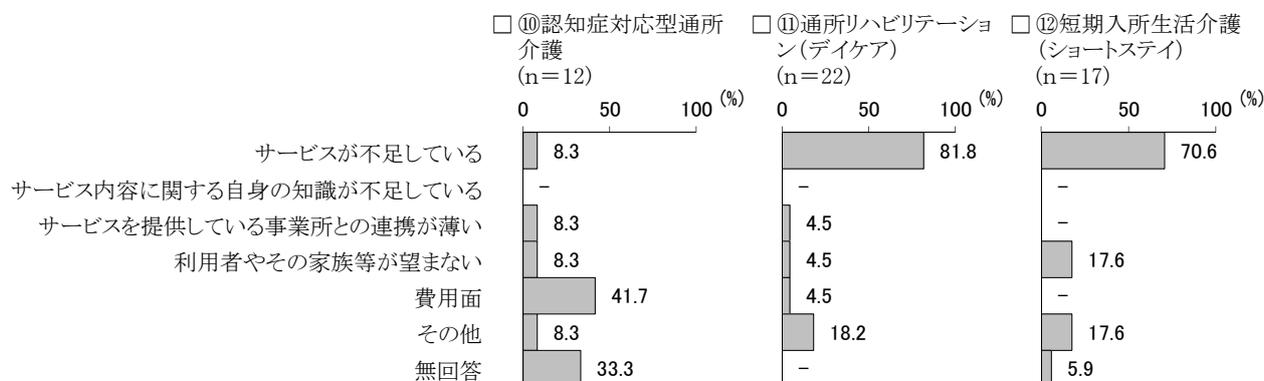
ケアプランの作成にあたって、組みにくいと思うサービスをたずねたところ、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(52.7%)が5割強で最も高く、次いで、「看護小規模多機能型居宅介護」(39.7%)、「小規模多機能型居宅介護」(38.2%)の順となっている。

(イ)ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う理由

<図表304> ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う理由（複数回答）

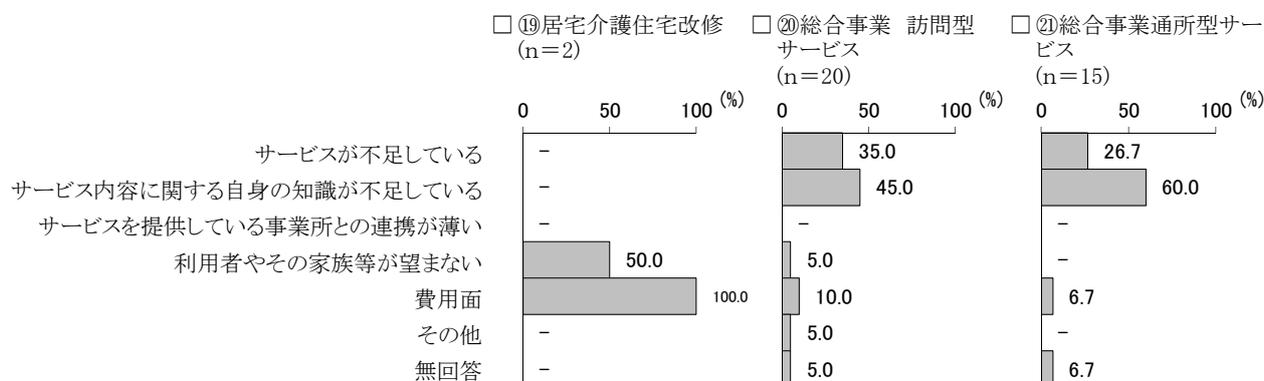


(次ページに続く)



(次ページに続く)

第2章 2-5 ケアマネジャー調査

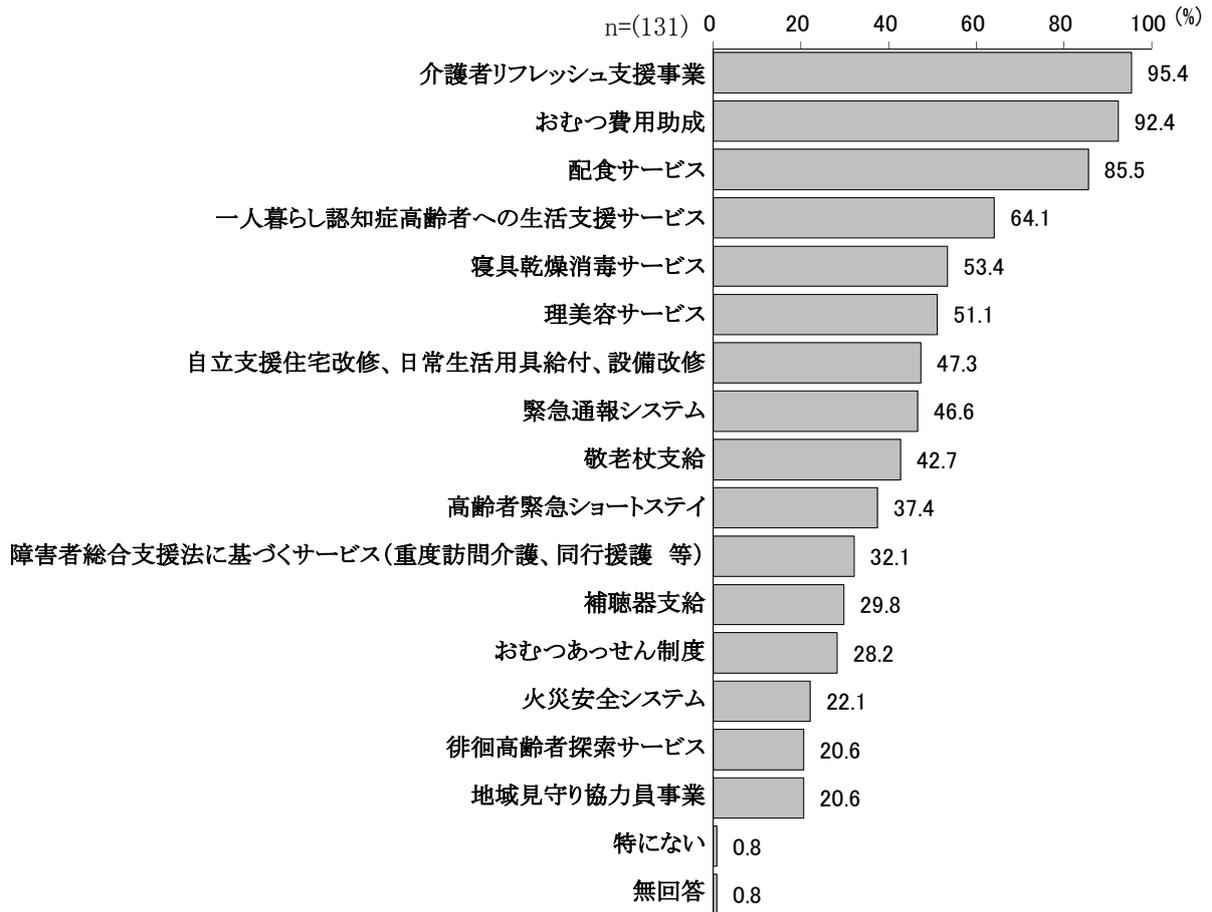


ケアプランの作成にあたって、組みにくいと思う理由をたずねたところ、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の場合、「サービスが不足している」(50.7%)が約5割と最も高くなっている。また、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護の場合では、ともに「サービス内容に関する自身の知識が不足している」(それぞれ34.0%、32.7%)が最も高くなっている。

## ②ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービス

問24 区などが提供している介護保険以外の高齢者福祉サービス等で、あなたがケアプランの作成にあたり、検討するものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表305> ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービス (複数回答)



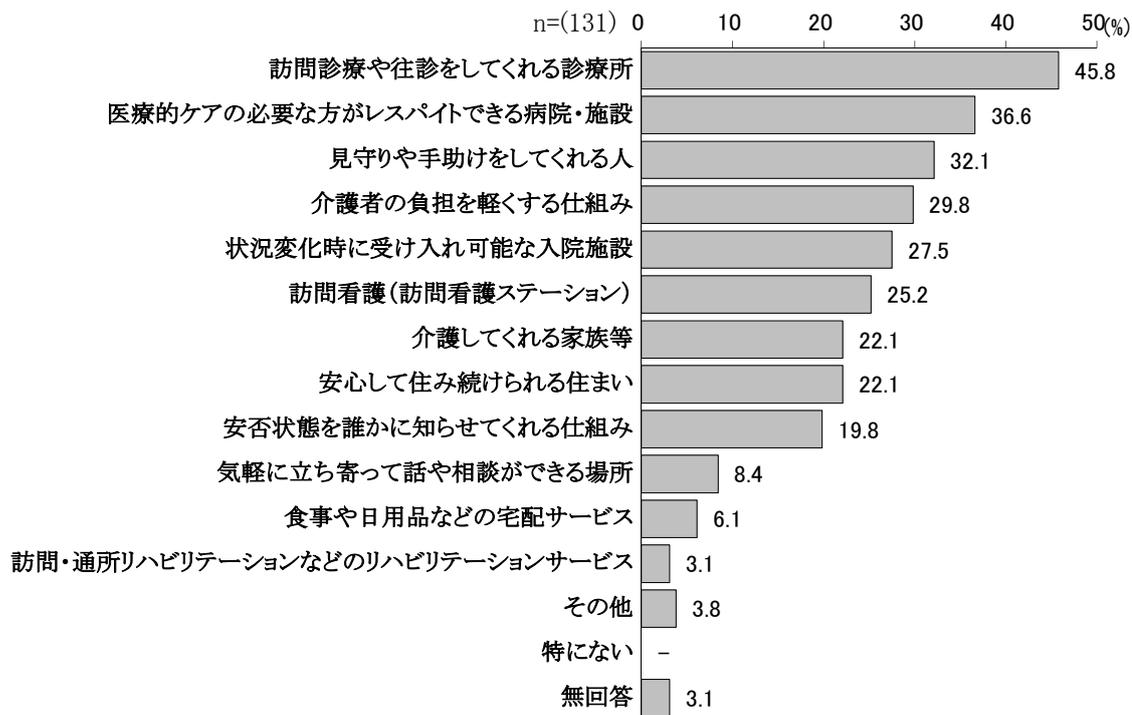
ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービスをたずねたところ、「介護者リフレッシュ支援事業」(95.4%)が最も高く、次いで「おむつ費用助成」(92.4%)、「配食サービス」(85.5%)、「一人暮らし認知症高齢者への生活支援サービス」(64.1%)、「寝具乾燥消毒サービス」(53.4%)の順となっている。

(8) 在宅高齢者に必要な支援について

① 高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うもの

問25 介護や医療が必要になっても、高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものは何ですか。(あてはまるもの3つに○)

<図表306> 高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うもの(複数回答)



高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものをたずねたところ、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」(45.8%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「医療的ケアが必要な方がレスパイトできる病院・施設」(36.6%)、「見守りや手助けをしてくれる人」(32.1%)の順となっている。

## ②在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービス

問26 要介護者等（特に、一人暮らしの高齢者）が、在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービスとして、どのようなものが考えられますか。ご自由にお書きください。

要介護者等（特に、一人暮らしの高齢者）が、在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービスについて、回答の多かった内容は、「見守り・安否確認」「移送・付き添い」「食事・配食サービス」「インフォーマルサービス」の順であった。

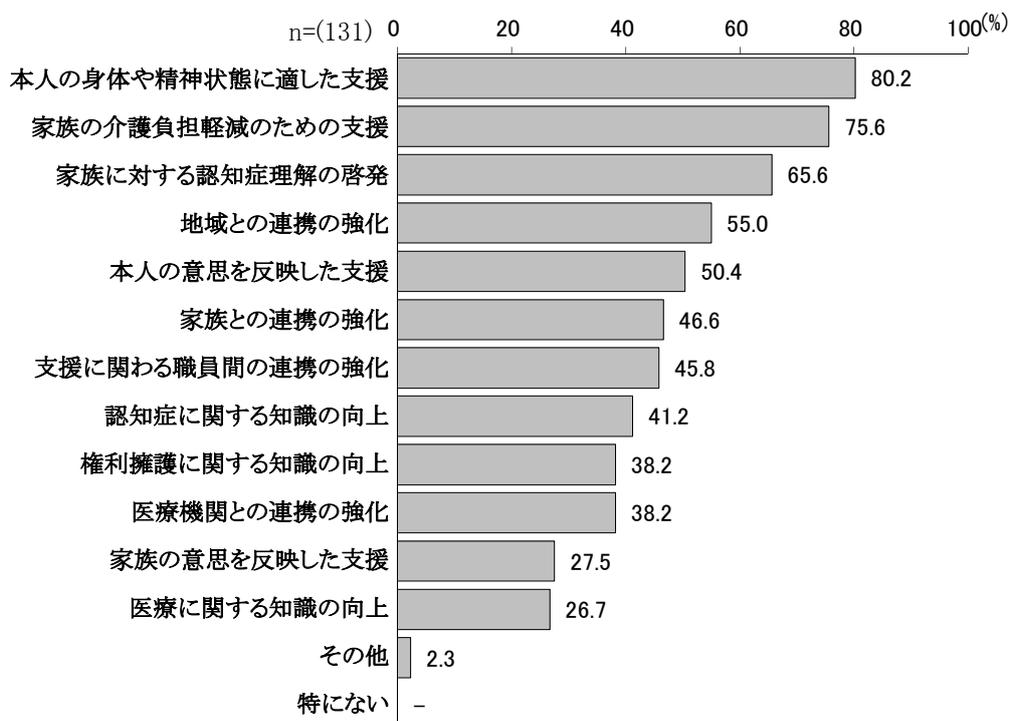
見守り・安否確認	移送・付き添い	食事・配食サービス	インフォーマルサービス	生活支援	訪問介護	在宅医療・服薬管理	デイサービス・通いの場	金銭管理
29	11	10	9	8	8	7	5	5

(9) 認知症について

①認知症高齢者への支援にあたって、特に重要と思われること

問27 認知症高齢者への支援にあたって、特に重要と思われることは、次のうちどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表307> 認知症高齢者への支援にあたって、特に重要と思われること (複数回答)

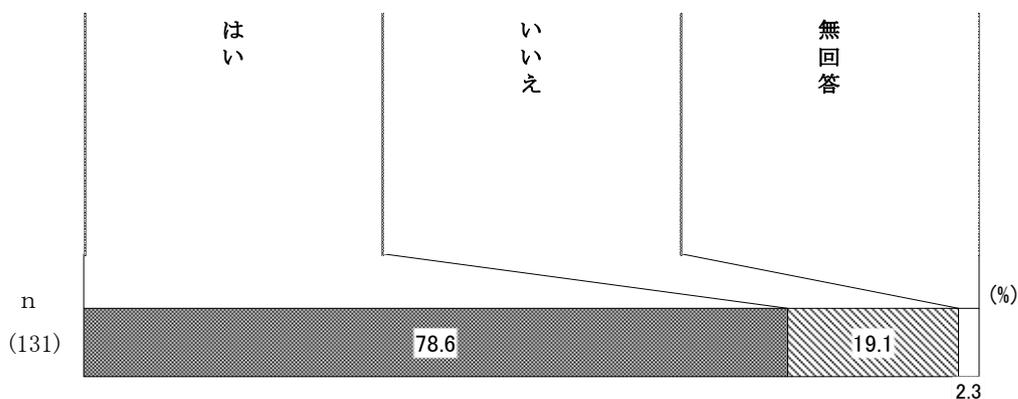


認知症高齢者への支援にあたって、特に重要と思われることをたずねたところ、「本人の身体や精神状態に適した支援」(80.2%)が約8割で最も高く、次いで、「家族の介護負担軽減のための支援」(75.6%)、「家族に対する認知症理解の啓発」(65.6%)の順となっている。

②認知症に関して相談のできる機関の有無

問28 あなたには、認知症に関して相談のできる機関がありますか。(○は1つ)

<図表308> 認知症に関して相談のできる機関の有無

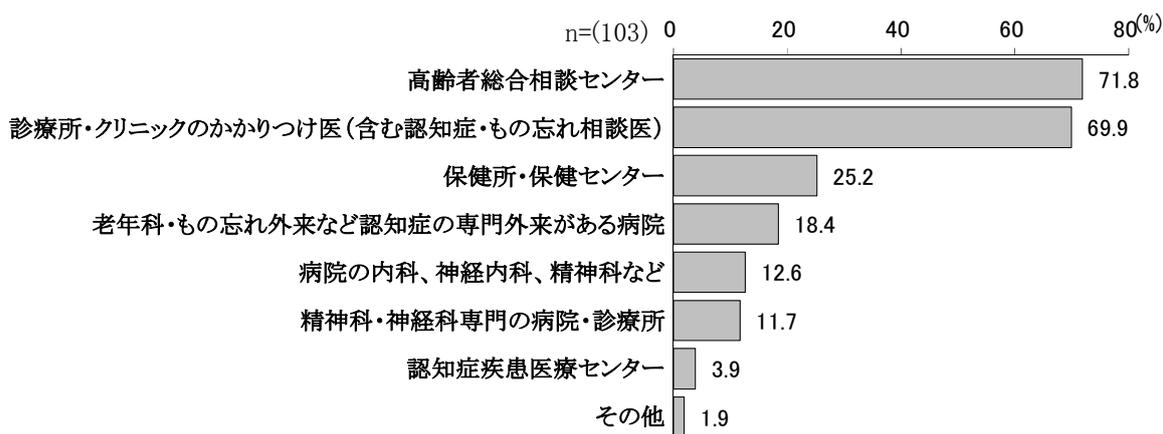


認知症に関して相談のできる機関の有無をたずねたところ、「はい」(78.6%)が8割近くとなっている。

③認知症に関する相談先

問28-1 <<問28で「1. はい」を選んだ方のみお答えください>>  
どちらに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表309> 認知症に関する相談先(複数回答)



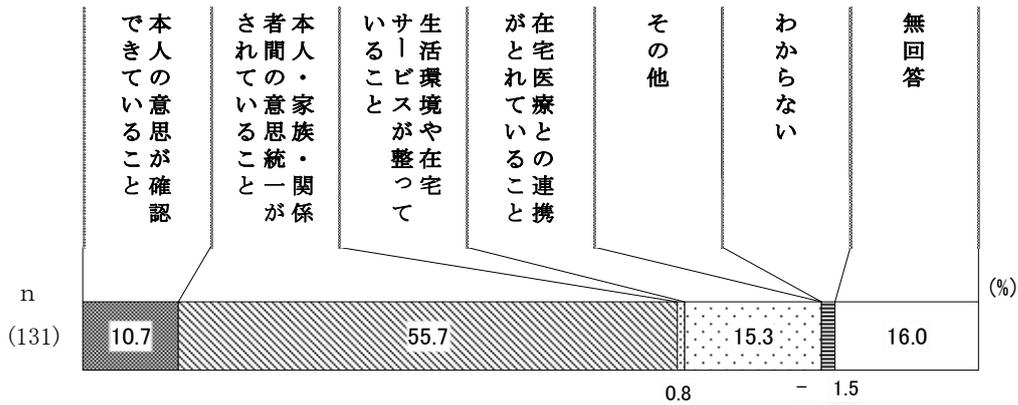
問28で「はい」と回答した人に認知症に関する相談先をたずねたところ、「高齢者総合相談センター」(71.8%)、「診療所・クリニックのかかりつけ医(含む認知症・もの忘れ相談医)」(69.9%)がともに高くなっている。

(10) 在宅療養・看取りについて

①看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うこと

問29 あなたが看取りをサポートする側に立った場合、特に欠かせないと思うことは何ですか。(1つに○)

<図表310> 看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うこと

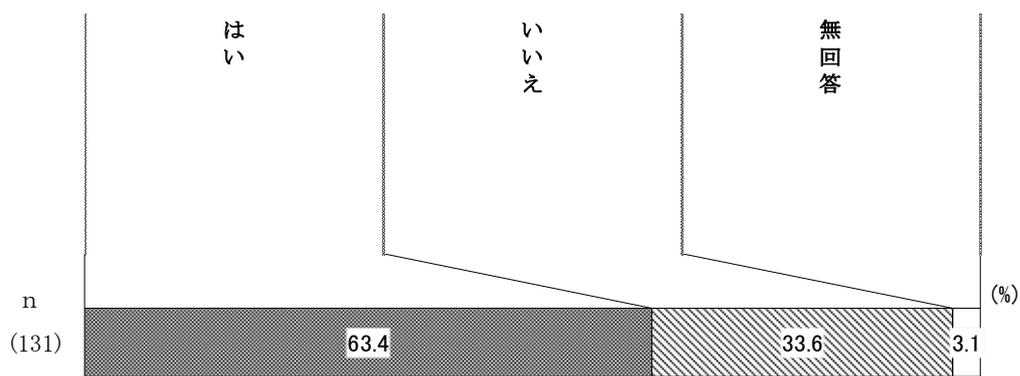


看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うことをたずねたところ、「本人・家族・関係者間の意思統一がされていること」(55.7%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「在宅医療との連携がとれていること」(15.3%)、「本人の意思が確認できていること」(10.7%)の順となっている。

②過去1年間で看取りをしたケース及び回数

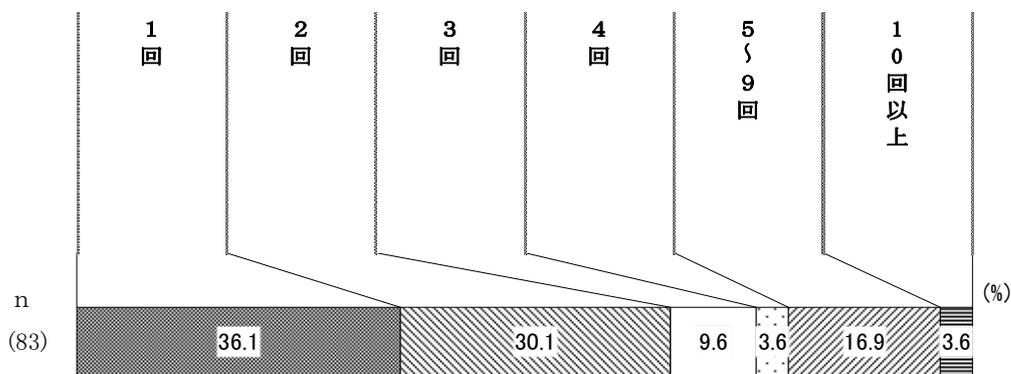
問30 過去1年間で、あなたは在宅で看取りをしたケースがありますか。なお、ある場合は、回数をご記入ください。(1つに〇)

<図表311> 過去1年間で看取りをしたケースの有無



看取りに立ち会ったケースがある場合

<図表312> 過去1年間で看取りをした回数



過去1年間で看取りをしたケースをたずねたところ、「はい」(63.4%)は6割台半ば近く、「いいえ」(33.6%)は3割台半ば近くとなっている。

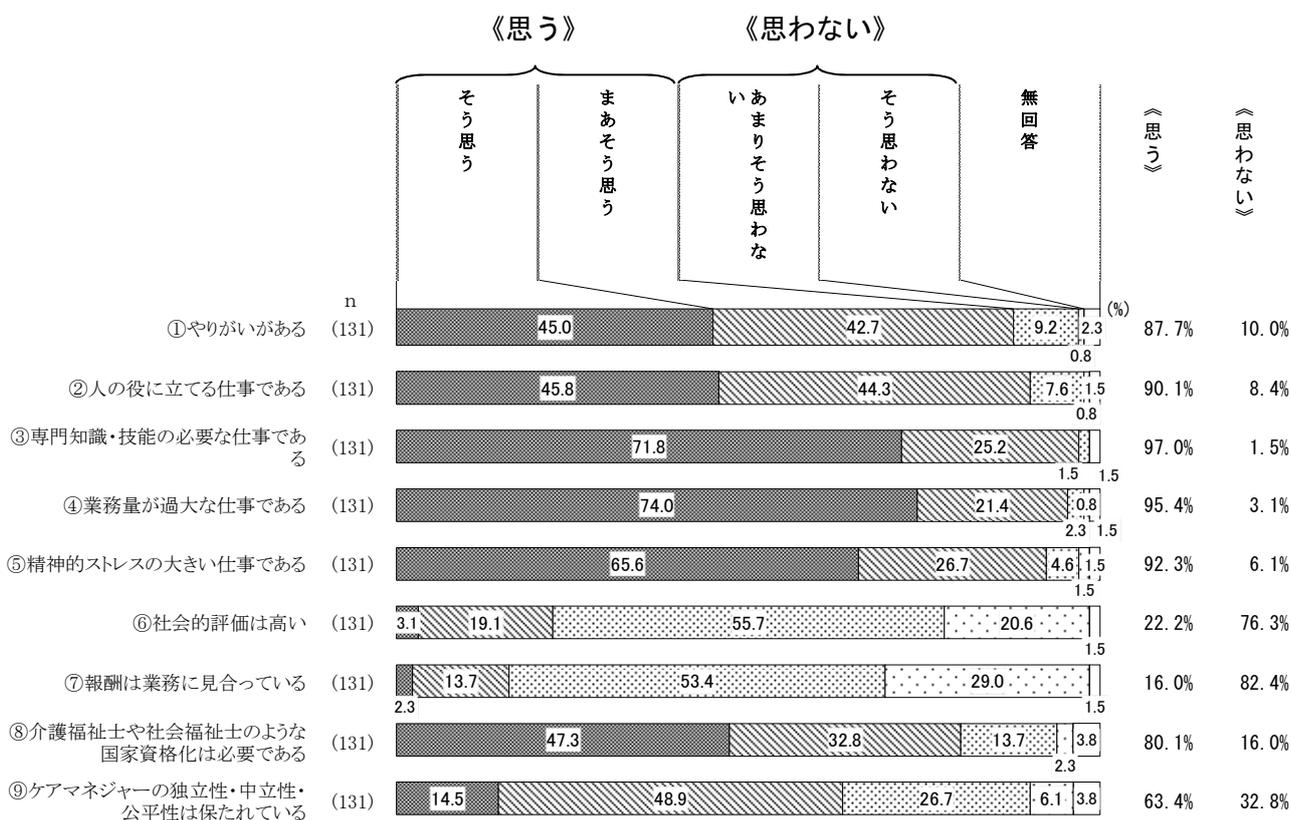
「はい」と回答した人に看取りに立ち会った回数をたずねたところ、「1回」(36.1%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「2回」(30.1%)、「5~9回」(16.9%)の順となっている。

(11) ケアマネジャーの仕事について

①ケアマネジャーの仕事についての考え

問31 あなたは、ケアマネジャーの仕事について、どのようにお考えですか。  
(それぞれ1つに○)

<図表313> ケアマネジャーの仕事についての考え



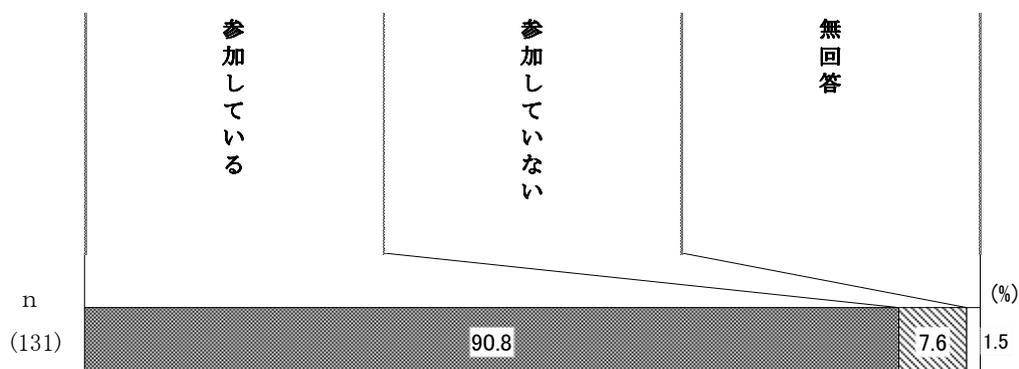
ケアマネジャーの仕事について、《思う》（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）は、【③専門知識・技能の必要な仕事である】（97.0%）が最も高く、次いで【④業務量が過大な仕事である】（95.4%）、【⑤精神的ストレスの大きい仕事である】（92.3%）の順となっている。一方、《思わない》（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）は、【⑦報酬は業務に見合っている】（82.4%）が最も高く、次いで【⑥社会的評価は高い】（76.3%）の順となっている。

(12) スキルアップについて

①研修への参加状況

問32 あなたは、研修に参加していますか。(1つに○)

<図表314> 研修への参加状況



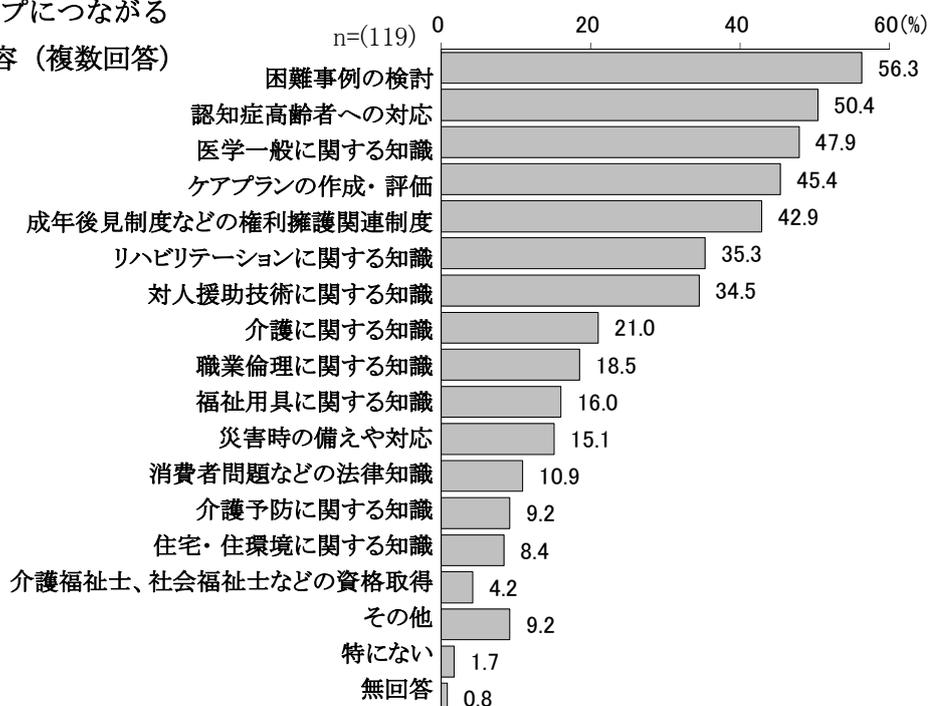
研修への参加状況をたずねたところ、「参加している」(90.8%)は約9割となっている。

②スキルアップにつながる研修内容

問32-1 <<問32で「参加している」を選んだ方のみお答えください>>  
 どのような研修内容が、あなたのスキルアップにつながりましたか。  
 (あてはまるものすべてに○)

<図表315> スキルアップにつながる

研修内容 (複数回答)



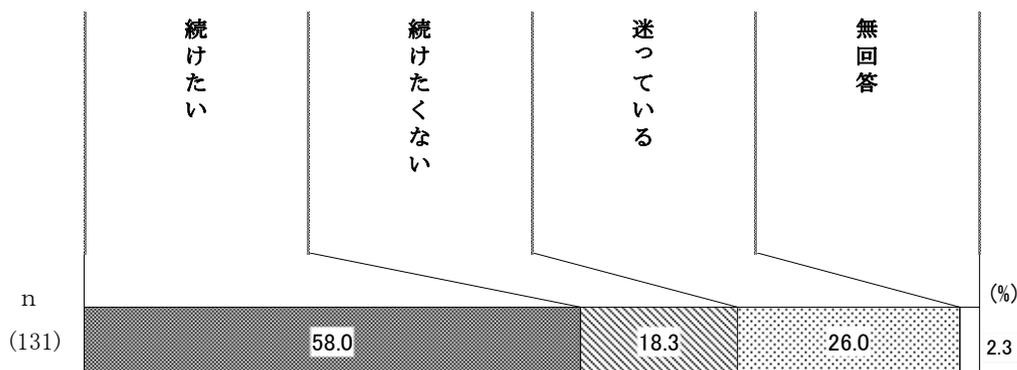
問32で「参加している」と回答した人にスキルアップにつながる研修内容をたずねたところ、「困難事例の検討」(56.3%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「認知症高齢者への対応」(50.4%)、「医学一般に関する知識」(47.9%)の順となっている。

(13) 今後の意向について

①ケアマネジャーの仕事の継続意思

問33 あなたは、これからもケアマネジャーを続けたいと思いますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

<図表316> ケアマネジャーの仕事の継続意思

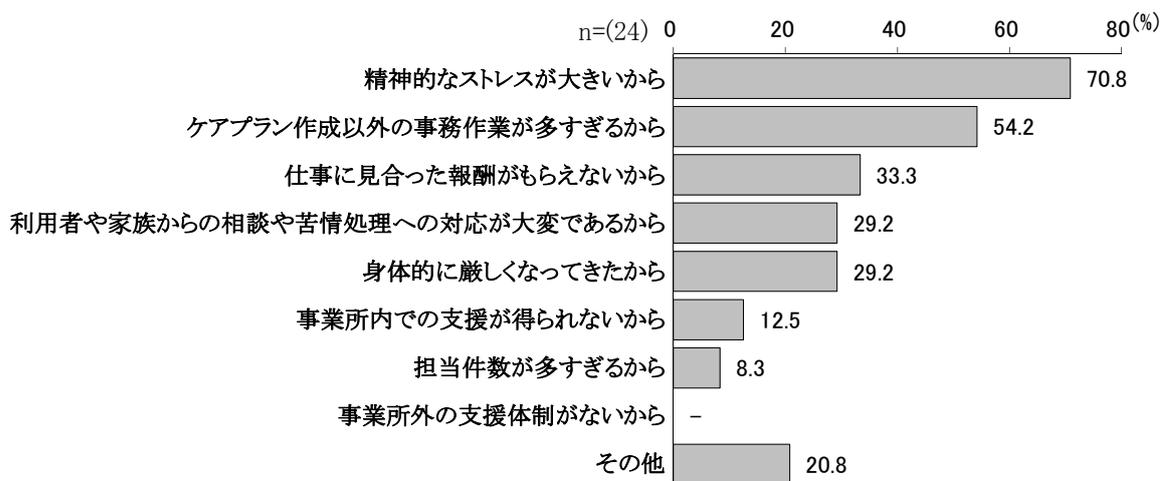


ケアマネジャーの仕事の継続意思をたずねたところ、「続けたい」(58.0%)が6割近くとなっている。

②ケアマネジャーの仕事の続けたくない理由

問33-1 <<問33で「続けたくない」を選んだ方のみお答えください>>  
 ケアマネジャーを続けたくないと思う理由は、次のうちどれですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

<図表317> ケアマネジャーの仕事の続けたくない理由 (複数回答)



※基数が少ないため、参考として記載するにとどめる。

## ③ケアマネジャーの仕事の継続について迷っている理由

問33-2 《問33で「迷っている」を選んだ方のみお答えください》  
迷っている理由があればお聞かせください。

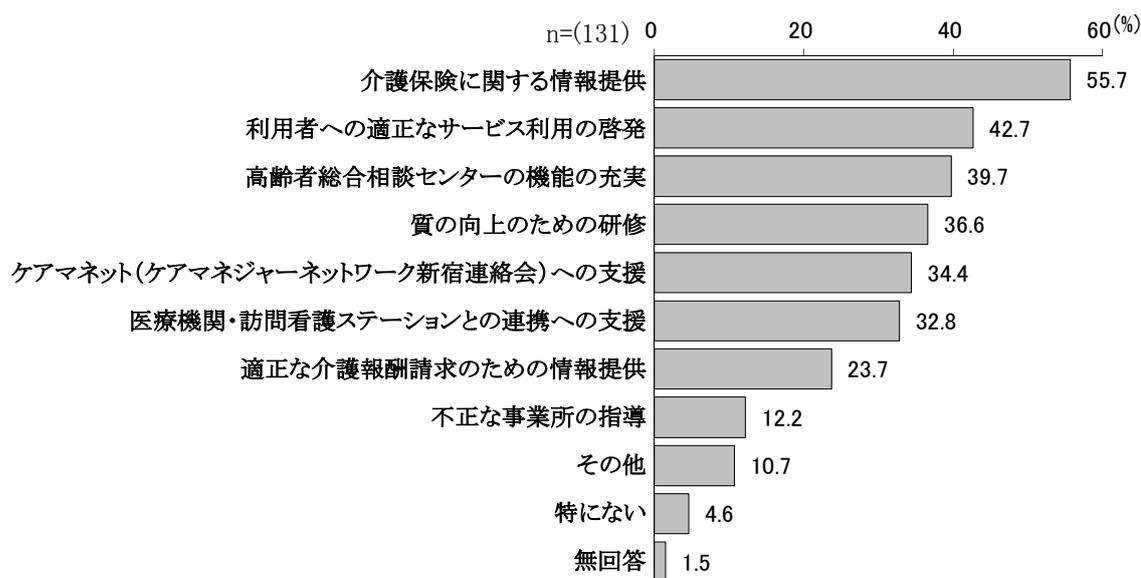
迷っている理由について、本当に必要な仕事なのか疑問を感じている、会社から別の役割を期待されている、ケアマネジャーに向いていない、年齢的な理由といった回答があげられた。

## (14) 新宿区への要望について

## ①新宿区に対して望むこと

問34 ケアマネジャーの立場からみて、保険者である区に対して、何を望みますか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表318> 新宿区に対して望むこと (複数回答)

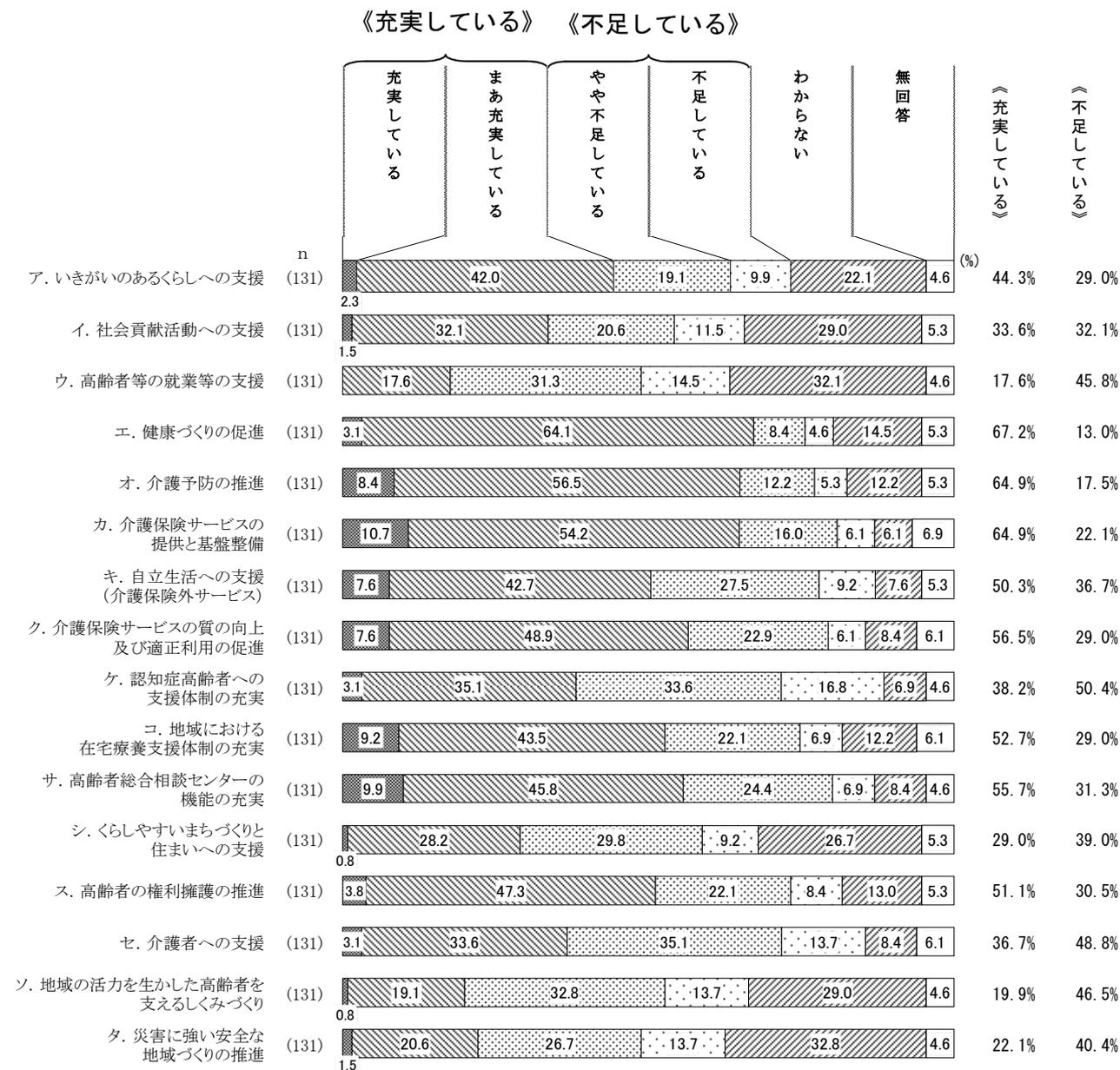


ケアマネジャーの立場から、新宿区に対して望むことをたずねたところ、「介護保険に関する情報提供」(55.7%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「利用者への適正なサービス利用の啓発」(42.7%)、「高齢者総合相談センターの機能の充実」(39.7%)の順となっている。

②新宿区の高齢者支援に対する評価

問35 ケアマネジャーの立場からみて、区の高齢者支援の状況をどうお考えですか。  
(それぞれ1つに○)

<図表319> 新宿区の高齢者支援に対する評価



ケアマネジャーの立場からみた、新宿区の高齢者支援の状況をたずねたところ、「充実している」と「まあ充実している」をあわせた《充実している》は、【エ. 健康づくりの促進】(67.2%)が6割台半ばを超え最も高く、次いで【オ. 介護予防の推進】及び【カ. 介護保険サービスの提供と基盤整備】(ともに64.9%)、【ク. 介護保険サービスの質の向上及び適正利用の促進】(56.5%)の順となっている。一方、「やや不足している」と「不足している」をあわせた《不足している》は、【ケ. 認知症高齢者への支援体制の充実】(50.4%)が約5割で最も高く、次いで【セ. 介護者への支援】(48.8%)、【ソ. 地域の活力を生かした高齢者を支えるしくみづくり】(46.5%)の順となっている。

③最も関わりの深い特別出張所管轄

問36 あなたが日頃、利用者や介護事業者等の関係機関と接している中で、かかわりの一番深い特別出張所管轄をお選びください。(1つに○)

<図表320> 最も関わりの深い特別出張所管轄

(件・%)

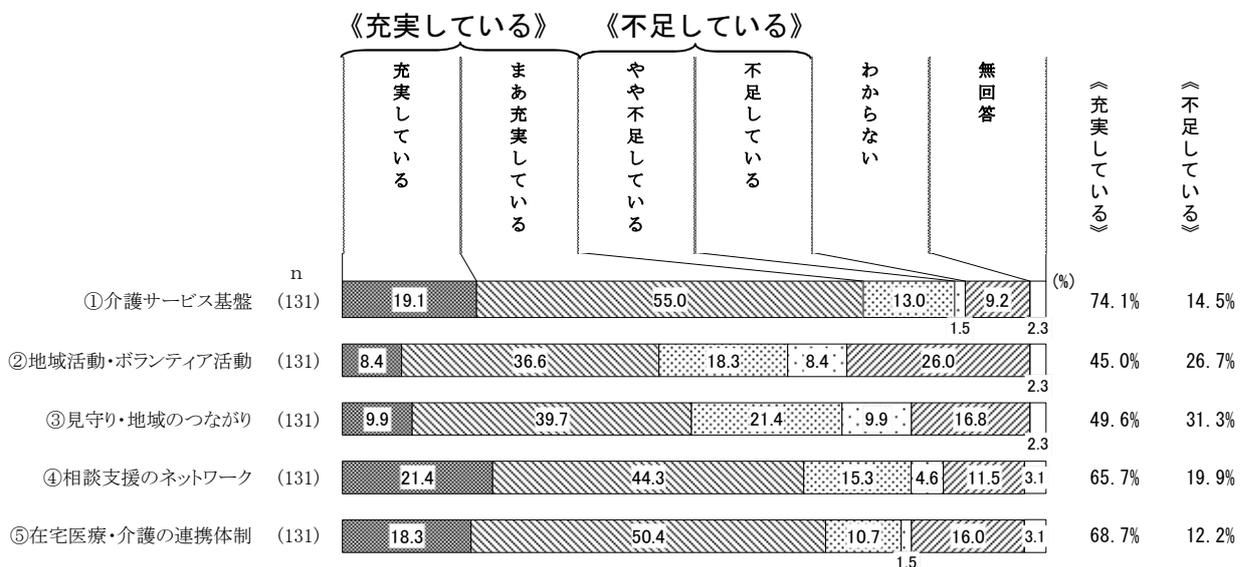
調査数	四谷	箕筒町	榎町	若松町	大久保	戸塚	落合第一	落合第二	柏木	角筈	無回答
131	11.5	9.9	5.3	13.0	13.0	16.8	8.4	6.9	9.2	0.8	5.3

最も関わりの深い特別出張所管轄をたずねたところ、「戸塚」(16.8%)が1割台半ばを超えて最も高く、次いで「若松町」及び「大久保」(ともに13.0%)の順となっている。

④管轄地域についての評価

問36-1 <<問36で選んだ地域についてお答えください>>  
 当該の管轄地域について、どのように思われますか。(それぞれ1つに○)

<図表321> 管轄地域についての評価



管轄地域についての評価をたずねたところ、「充実している」と「まあ充実している」をあわせた《充実している》は、【①介護サービス基盤】(74.1%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで【⑤在宅医療・介護の連携体制】(68.7%)、【④相談支援のネットワーク】(65.7%)の順となっている。

### ⑤高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問37 在宅介護に関して気になっている点など、ご自由にお書きください。

在宅介護に関して気になっている点などについて、以下のような回答があった。  
各事項について、回答の中からいくつかの意見を示す。

#### 【介護人材に関すること】

- ・高齢者総合相談センターの人材不足は常に感じる。特定の担当者の負担が大きくなり、新しい職員は経験不足…といった悪循環があるのではないか。
- ・在宅介護に関わる職員の地位も報酬も高くないのに責任は重いため、モチベーション低下や定着率低下や離職率アップにつながりやすく、安定感に欠ける。
- ・ヘルパーさんが不足で困っている。若い人達が喜んで働けるだけの手当を支払って戴きたい。

#### 【制度面に関すること】

- ・制度が複雑化する一方で、利用する側にとってどんどん分かりにくくなっている。
- ・利用できるサービスの急な変更は、混乱をまねく事になる。制度の改正は慎重に行なって欲しい。
- ・介護保険制度の財源が心配である。

#### 【障害者支援に関すること】

- ・65才以下で、なおかつ軽度の発達障がいなど制度にかからない方達の相談窓口がないかと悩むことがある。
- ・障害者支援が高齢者支援担当のケアマネジャーの二重負荷となっている。

#### 【家族介護に関すること】

- ・家族負担が大きい。
- ・ご家族が認知症や筋力低下等についての病識が無く、診察や新しいサービス導入への拒否が強い場合があり、導入が困難なことがある。
- ・「できる事は本人、家族に行ってもらおう」視点が大切。できなかった事ができる様になる為のプランである事を常に本人の家族に伝え続けている。

#### 【認知症に関すること】

- ・一人暮らし認知症高齢者への生活支援が新たに事業開始され、サービス計画の幅が広がったが、認知症以外の独居者には活用できないことが今後の課題と感じる。
- ・独居で認知症になると判断に迷う。かつ金銭面で対応できないようなケースだと迷う。
- ・認知症のBPSDの解決策が見つかりにくい。

【医療と介護の連携に関すること】

- ・在宅看取りへの理解を深め、家族が不安にならないよう、医療と介護の連携強化が必要。特に家族がかかえ込まないようにしていきたい。
- ・在宅医療を使いながらも各種検査には他医療機関に通院する必要があり、ケアマネが全て付き添うことになっている。